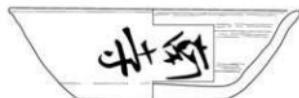


静岡県 富士市

沖田遺跡 第155次調査地点



SK4001 出土墨書き土器 (S=1:2)

2020年3月

富士市教育委員会

例　言

- 1 本書は、静岡県富士市比奈 643 番 1 外において実施した沖田遺跡第 155 次調査地点の発掘調査（2 次～4 次調査）にかかる報告である。
発掘調査は工場新築に先立つ事前調査として、事業者からの委託により富士市教育委員会が実施した。
- 2 各調査の調査期間、掘削面積は次のとおりである。

2 次調査（確認調査）	平成 30 年（2018 年）1 月 31 日	18,450 m ²
3 次調査（本発掘調査）	平成 30 年（2018 年）3 月 7 日～3 月 27 日	260,570 m ²
4 次調査（本発掘調査）	平成 30 年（2018 年）4 月 3 日～5 月 11 日	290,597 m ²
- 3 本報告書刊行に向けた整理作業は、平成 31 年（2019 年）4 月に開始し、本書の刊行をもって終了した。
- 4 本書の執筆は第 1 章から第 3 章が若林美希（市民部文化振興課 発掘調査員）、第 4 章が佐藤祐樹（市民部文化振興課 主査）による。編集は若林が担当した。
- 5 現地調査における記録写真および整理作業における遺物写真是佐藤が撮影した。
- 6 本書で報告した調査に関わる記録図面・出土遺物等の資料は、すべて富士市教育委員会で保管している。
今後、富士山かぐや姫ミュージアム（富士市立博物館）に移管する予定である。
- 7 本書の作成にあたり、次の方々にご協力とご指導を賜りました。厚く御礼申し上げます。（敬称略、五十音順）
小崎晋　中川律子　西尾太加二

凡　例

- 1 本書で示す座標は、平面直角座標第VII系を用いた国土座標、世界測地系（平成14年4月施行）を使用している。
調査では、国土地理院による都市再生街区基本調査成果を用いた。
- 2 挿図の縮尺は、各図に添付したスケールで示す。写真図版の縮尺はすべて任意である。
- 3 土器の実測図では、断面を以下のように表現することで種類の違いを示した。

- 4 土層・遺物の色調は『標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議局監修）に準拠した。
- 5 遺構・遺物とともに、法量の（ ）は残存値、〔 〕は推定値である。また、土器の残存率は図示中の残存率を示した。
- 6 遺構の略記号は以下の通りである。
KH：畦畔 SD：溝状遺構 SH：掘立柱建物跡 SK：土坑 Pit：小穴 SX：性格不明遺構
- 7 出土遺物の時期については、主として次の文献に基づいて検討した。
木ノ内義昭 2002「須恵器流入以降～律令時代の土師器の様相」『東平遺跡』富士市教育委員会
鈴木敏則 1998「第1章第4節 律令時代土器編年の概要」『梶子北遺跡』遺物編（本文）（財）浜松市文化協会
鈴木敏則 2004「第5章第2節 静岡県下の須恵器編年」『有玉古窯』浜松市教育委員会

目 次

例 言

凡 例

目 次

第1章 調査の経緯と経過	
第1節 発掘作業の経緯と経過	1
第2節 整理作業の経緯と経過	7
第3節 調査の体制	7
第2章 沖田遺跡の概要	
第1節 地理的環境	8
第2節 歴史的環境	9
第3章 調査成果	
第1節 基本土層	15
第2節 1工区	15
第3節 2工区	18
第4章 総括	34
付表	
出土遺物観察表	41
出土土器分類表	44
写真図版	
報告書抄録	

挿図目次

第1章 調査の経緯と経過	
第1節 発掘作業の経緯と経過	
第1図 富士市の位置	1
第2図 沖田遺跡第155次調査地位位置図	2
第3図 確認調査トレンドおよび木調査区配図図	2
第4図 確認調査トレンドセクション図	2
第5図 確認調査出土遺物実測図	3
第3節 調査の体制	
第6図 調査指導風景	7
第2章 沖田遺跡の概要	
第1節 地理的環境	
第7図 沖田遺跡の位置	8
第2節 歴史的環境	
第8図 富士山南麓の地形	9
第9図 沖田遺跡調査履歴図	10
第10図 春日神社境内採集の資料	11
第11図 沖田遺跡周辺の地形	11
第12図 調査風景（1）	14
第13図 調査風景（2）	14
第14図 調査風景（3）	14
第15図 調査風景（4）	14
第3章 調査成果	
第1節 基本土層	
第16図 基本上層図	15
第2節 1工区	
第17図 1工区全体図・セクション図	16
第18図 1工区構造外出土遺物実測図	17
第3節 2工区	
第19図 2工区全体図	18
第20図 2工区セクション図	19
第21図 2工区上層遺構全体平面図	20
第22図 2工区上層遺構セクション図	21
第23図 KH4001・KH4003出土遺物実測図	22
第24図 Ph4001	23
第25図 2工区下層遺構全体平面図	24
第26図 SH4001	25
第27図 SH4001出土遺物実測図	26
第28図 台輪の復元	27
第29図 SK4001出土遺物実測図	28
第30図 SK4001	28
第31図 SX4001	29
第32図 SX4001出土遺物実測図	29
第33図 2工区VI・VII層出土遺物実測図	30
第34図 2工区X・I層出土遺物実測図	32
第35図 2工区出土層位不明遺物実測図	32
第4章 総括	
第36図 繩文時代から古墳時代前期における沖田遺跡の周辺	35
第37図 飛鳥時代から平安時代における沖田遺跡の周辺	36

挿表目次

第2章 沖田遺跡の概要	
第2節 歴史的環境	
第1表 沖田遺跡調査履歴一覧	12
第4章 総括	
第2表 時期別の土器点数	37

写真図版目次

PL.1

1. 2工区 上層遺構完掘全景 (南東から)

PL.2

1. 1工区 完掘全景 (北東から)
2. 1工区 東壁・南壁 (北西から)

PL.3

1. 2工区 遺構核出 (南東から)
2. KH4002SX01 條出 (南から)
3. KH4002SX02 條出 (西から)
4. 2工区 上層遺構完掘全景 (南西から)

PL.4

1. 2工区 上層遺構完掘全景 (北西から)
2. SD4001 (南東から)
3. SD4001・KH4001 東西土層 GG' (北から)
4. SD4001 東西土層 DD' (南から)
5. PI4001 (南から)
6. 2工区 調査風景 (北東から)

PL.5

1. 2工区 下層遺構核出 (南東から)
2. 2工区 東西土層ベルト北 DD' (南東から)
3. 2工区 東西土層ベルト南 FF' (南から)

PL.6

1. 2工区 北壁土層 CC'・BB' (南東から)
2. SK4001 條出 (南東から)
3. SK4001 完掘 (東から)
4. SK4001 (南東から)

PL.7

1. SH4001PI01 (南から)
2. SH4001PI02 (西から)
3. SH4001PI03 (北東から)
4. SX4001 (南から)
5. SX4001 土師器 (53) 出土状況 (南から)
6. SX4001 土師器 (59) 出土状況 (西から)
7. 木製品 (87) 出土状況 (北東から)
8. 木製品 (99) 出土状況 (北から)

PL.8

- 出土遺物集合

PL.9

- 出土遺物集合 (調文)
春日神社 表孫遺物
確認調査 STy出土遺物

PL.10

- 本調査 1工区 II層出土遺物

PL.11

- 本調査 2工区 KH4001・KH4003 出土遺物

PL.12

- 本調査 2工区 SH4001 出土遺物

PL.13

- 本調査 2工区 SH4001 出土遺物

PL.14

- 本調査 2工区 SK4001 出土遺物

- 本調査 2工区 SX4001 出土遺物

PL.15

- 本調査 2工区 SX4001 出土遺物

PL.16

- 本調査 2工区 遺構外 (VI層・VII層) 出土遺物

PL.17

- 本調査 2工区 遺構外 (VI層・VII層) 出土遺物

PL.18

- 本調査 2工区 遺構外 (X層・XI層) 出土遺物

PL.19

- 本調査 2工区 遺構外 (X層・XI層) 出土遺物

- 本調査 2工区 遺構外出土遺物

PL.20

- 本調査 2工区 遺構外出土遺物

第1章 調査の経緯と経過

第1節 発掘作業の経緯と経過

1次調査

株式会社日本製紙（以下、売主）は、富士市比奈643番1外（4654.4m²）において不動産売買を計画した。当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「沖田遺跡」の範囲内に位置することから、売主は売買前に埋蔵文化財の有無について確認することを希望した。平成28年10月18日、富士市教育委員会教育長（以下、市教育長）宛に売主から「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」と「発掘調査承諾書」が提出された。

これを受け、11月8日、市教育長から静岡県教育委員会教育長（以下、県教育長）宛に、文化財保護法第99条に基づく書類「発掘調査について」を提出し（富士文発第747号）、確認調査（1次調査）を実施することになった。

調査は、富士市教育委員会（以下、市教育委員会）の補助執行機関である富士市市民部文化振興課により平成28年11月17日から11月18日にかけて行った。

対象地の北半は駐車場として使用中であり、南半には社員寮であった建物が残存しているため、北半の東寄りに3箇所のトレンチを設定した（1～3Tr、38.189m²）（第3図）。

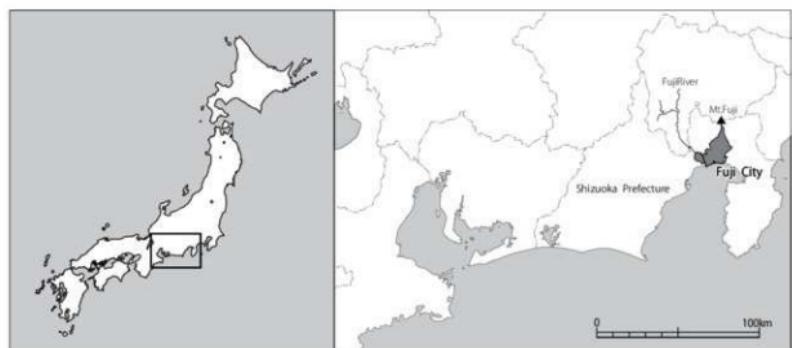
沖田遺跡の地盤は湿地であり軟弱なうえ、近隣で行われた過去の調査では、構造や遺物が地表下3mほどの深さから検出されていることから、重機による掘削後、地上からの土層観察による構造の確認と、排水からの遺物取得に努めた。

その結果、湧水の影響もあり明確な構造を認識することはできなかったが、地表下2.5mから、弥生土器・土師器・須恵器・灰釉陶器が出土し、弥生時代および奈良・平安時代の遺物包含層（確認調査II層、本調査2工区VII層に対応）が存在することを確認した（第4図）。

出土した遺物については、11月21日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富士文発第790号）を、県教育長宛に「出土品保管証」（富士文発第790-2号）を提出し、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている（平成28年12月1日付け教文第1427号）。

11月25日、売主ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」（富士文発第805号）を提出した。

1次調査の成果については、『富士市内遺跡発掘調査報告書 一平成28年度一』（富士市教育委員会 2017）において報告済みである。



第1図 富士市の位置

2 次調査

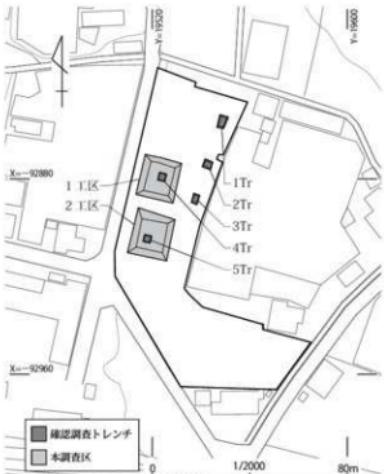
1次調査終了後、丸富製紙株式会社（以下、土地所有者）が当該地の土地を取得した。土地所有者の関連会社である丸富衛材株式会社（以下、事業者）が当該地に工場を新築することとなり、平成29年12月15日、埋蔵文化財の対応について文化振興課と協議を開始した。工事では、10m四方、深さ7mの地



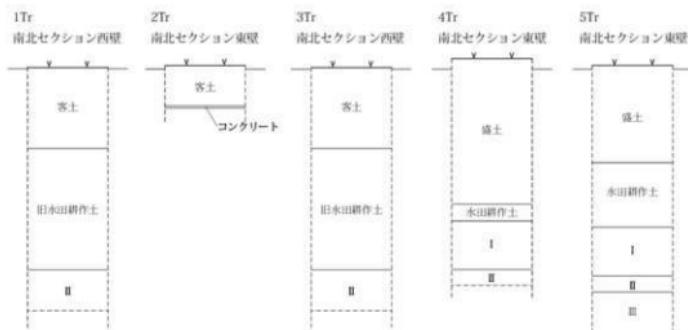
第2図 沖田遺跡第155次調査地点位置図

下ピットの掘削と、工場建物の基礎で2mほどの掘削が計画されており、正確な遺物包含層の深さを確認するため、改めて確認調査が必要と判断された。

平成30年1月12日、事業者から「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」が、土地所有者と事業者の双方から「発掘調査承諾書」が市教育長宛に提出された。



第3図 確認調査トレントチおよび本調査区配置図



I 黒褐色粘性土 (7SYR3/1) しまりややあり、粘性強い。植物遺存体を中量含む。粘性土。上層に薄く砂層が入る。
 II 黑色粘性土 (7SYR2/1) しまりややあり、粘性あり。遺物包含層。 = 本調査2工区のⅤ層。
 III 黑褐色粘質土 (7SYR3/1) しまりややあり、粘性あり。

0 160 2m
L=4.0m

第4図 確認調査トレントチセクション図

これを受け、1月30日、文化財保護法第99条に基づく書類「発掘調査について」を県教育長宛に提出し（富市文発第1004号）、文化振興課による確認調査（2次調査）を行うこととなった。

調査は平成30年1月31日に実施した。対象地の北半、西寄りに2箇所のトレンチを設定し（4～5Tr、18.450m²）（第3図）、重機による掘削を行い、遺構・遺物の発見に努めた。

その結果、やはり湧水の影響で明確な遺構は確認できなかったが、地表下2.6mで遺物包含層に達し（第4図）、弥生土器・土師器・須恵器が出土した。出土した遺物から、2点を図示した（第5図）。

1・2はいずれも5トレンチから出土した。

1は須恵器の壺蓋である。天井部外面は中ほどから回転ケズリが施される。端部が長めに強く折れる。8世紀代に位置づけられる。

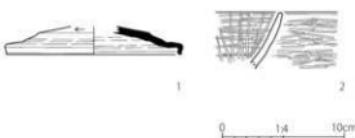
2は土師器の壺で、外面にはヨコヘラミガキが、内面にはヨコヘラミガキの後、放射状のタテヘラミガキが施される。甲斐型壺の可能性があるが、体部外面下半のヘラケズリは認められない。9世紀代に位置づけられる。

出土遺物については、2月2日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富市文発第1005号）を、県教育長宛に「出土品保管証」（富市文発第1005-2号）を提出し、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている（平成30年2月14日付け教文第1934号）。

2月6日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第1011号）を提出した。また、事業者から提出された文化財保護法第93条に基づく「埋蔵文化財発掘の届出書」を県教育委員会に進呈した。その結果、地下ピット掘削部分については遺跡の保護が困難なため、本発掘調査を実施するよう、県教育委員会から指示があった（平成30年2月7日付け教文第1904号の2）。

3次調査

県教育委員会からの指示を受け、地下ピット掘削部分2箇所について本発掘調査を実施することとなった。平成30年3月7日、文化振興課は文化財保護法第99条に基づく書類「発掘調査について」を県教育長宛に提出した（富市文発第1084号）。



第5図 確認調査出土遺物実測図

本発掘調査は平成29年度（3次調査）と平成30年度（4次調査）に分けて行うこととし、3次調査では北側の地下ピット部分を調査区（1工区、260.570m²）とした。

3月7日、事業者と富士市、市教育委員会の三者間で、沖田遺跡における文化財調査に関する協定が締結された。また同日、事業者（委託者）と富士市長（受託者）の二者間で平成29年度分の文化財調査に関する業務委託契約も締結した。

調査は平成30年3月7日から3月27日にかけて行った。

調査区（1工区）は南北幅約16.80m、東西幅約15.60mを測る。ディープウェルや排水ポンプを設置することで多量の地下水の流入に対処しながら、重機により掘削を行い、地表下2.8mで遺物包含層（II層）を面的に検出した。その後は、土層観察用の土層帯（ベルト）を残しながら重機と人力でII層を掘削し、現地および排土からの遺物検出に努めた。

1工区では湧水が激しく、遺構は確認できなかった。トータルステーションでの測量および手実測により、掘削状況と土層堆積状況の記録をとり、フィルムとデジタルを併用した記録写真撮影を行った。

遺物は、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・石器などが出土した。すべて同一層（II層）中からの出土であることから、これらの遺物は元位置を留めておらず、調査地北側に存在したとみられる居住域から流れ込み、遺物包含層を形成したものと考えられる。

出土遺物については、3月29日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富市文発第1129号）を、県教育長宛に「出土品保管証」（富市文発第1129-2号）を提出し、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている（平成30年4月12日付け教文第33号）。

3月28日、事業者に本發掘調査の部分完了について報告し（富市文発第1138号）、3月30日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第1142号）を提出した。

以下、3次調査の経過を調査日誌および週報より抜粋し記載する。

平成30年3月7日（水）

調査開始。コンテナハウス、物置ハウス、仮設トイレ設置。

1工区、重機（0.7BH）による表土掘削開始。

3月8日（木）

水替ディープウェル設置（各工区にひとつずつ）。

3月9日（金）～3月11日（日）

1工区、重機（0.7BH）による表土掘削。GL-2.5mまで掘削し、法面は斜度をつけてオープンカット。

3月12日（月）

1工区、表土掘削。地下水の流れ込みが激しいため、1工区南東隅にかま場を設置。排水ポンプは北東隅と南東隅の2台体制。

3月13日（火）

1工区北西隅に重機用のスロープをつくり、工区内に重機（0.1HB）を入れて側溝の掘削を開始。排土は工区内北側に集め、工区外から重機（0.7BH）で搬出。

かま場設置時および側溝掘削時の排土から遺物回収。弥生後期および7世紀から9世紀頃か。

3月14日（水）

1工区、側溝掘削と排土からの遺物回収を継続。

側溝の両壁で断面観察。大淵スコリアを含む黒色土を奈良・平安時代の遺物包含層と確認。

1工区北半部は湧水が多く、安全が確保されないため、側溝に沿って幅1mほどの土手を残し、内側の遺物包含層を重機（0.7BH）であげて遺物を回収することとする。

黒色遺物包含層の下で大淵スコリアを含まない層を検出。

3月15日（木）

1工区南北・東西セクションを写真撮影（デジタル+フィルム）。セクション図はトータルステーション（以下、TS）で分層線を計測して、図化。

I工区南半部の上層（黒褐色土）を重機（0.7BH）で除去し、黒色遺物包含層の面出し。

3月16日（金）

雨のため現場中止。

3月19日（月）

I工区南半部を、南西・南南・南東の3ブロックに分け、南西ブロックと南東ブロックで、人力による遺物包含層掘削を開始。

上層の黒褐色土層をI層、黒色遺物包含層をII層、その下の遺物を伴わない黒褐色土層をIII層とする。

午後、事業者および工務所と現場事務所にて工程会議。

3月20日（火）

重機でI工区北半部の東土手を除去し、排土から遺物を回収。

南東ブロックの人力掘削。

3月21日（水）

休工。

3月22日（木）

I工区南南ブロック、人力掘削。

3月23日（金）

I工区南東ブロック残存部、人力掘削。

南半部土手の東壁・南壁を分層。

I工区全景写真撮影（デジタル+フィルム）。

南東ブロック東壁・南壁セクション写真撮影（デジタル+フィルム）。

I工区平面および断面（III層上端線）をTS測量。

I工区内外片づけ、道具洗浄。

調査地点北側の春日神社で遺物を表採した（3月14日）との情報を受け、現地確認。

3月26日（月）

1工区、下端を測量。埋め戻し開始。

3月27日（火）

1工区、埋め戻し。

4 次調査

平成30年度は、南側の地下ピット掘削部分を調査区（2工区、290.597m²）として4次調査を行った。

平成30年4月2日、文化振興課は文化財保護法第99条に基づく書類「発掘調査について」を県教育長宛に提出した（富市文発第5号）。

4月2日、事業者（委託者）と富士市長（受託者）の二者間で平成30年度分の文化財調査に関する業務委託契約を締結した。

調査は平成30年4月3日から5月11日にかけて行った。

調査区（2工区）は南北幅約18.20m、東西幅約16.10mを測る。I工区と同様に、ディープウェルや排水ポンプを設置することで多量の地下水の流入に対処しながら、重機により掘削を行い、地表下約2.8mで遺物包含層（I工区のII層）に到達した。平面および土層断面観察で、本層が落ち込む部分が認められ精査したところ、本層を盛土として築かれた畦畔（KH4001～4003）と水路（SD4001）を検出した。この時点では土層の再検討を行い、I工区のII層は2工区ではVII層に対応すると整理した。基本土層の詳細は第3章第1節にて記す。

KH4001盛土内にピットI基（Pit4001）を検出した。

遺物包含層検出時点での確認されたここまででの遺構（KH4001～4003、SD4001、Pit4001）を便宜的に「2工区上層遺構」とグループ分けする。

その後、畦畔盛土およびVII層とVIII層を除去する過程で、板状の木製品が出土した。出土状況から掘立柱建物跡（SH4001）の礎板と捉えられる。また、調査区北壁際の中央付近で、VII層から掘り込まれ「南寺」などと墨書がある完形の土師器壺や被焼した甕が出土する土坑（SK4001）を検出し、さらに、KH4001盛土直下（VII層上面）で遺物集中地点（SX4001）を検出した。これらの遺構（SH4001、SK4001、SX4001）を「第2工区下層遺構」とグループ分けする。

VII層とVIII層を除去し、IX層上面を調査停止面としたが、調査区東壁際で掘った排水用側溝の底面から10cmほどの深さで弥生土器が採取された。壁面の崩落により安全確保が難しく、重機による部分的な深掘りを行った。その結果、弥生土器包含層（X I層）とその下の溶岩を多く含む層（X II層）を確認し、X I層から縄文土器、弥生土器、石器を採取した。

トータルステーションでの測量と手実測により、遺構および遺物の出土状況と土層堆積状況の記録をとり、フィルムとデジタルを併用した記録写真撮影を行った。

出土遺物については、5月2日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富市文発第119号）を、県教育長宛に「出土品保管証」（富市文発第119-2号）を提出し、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている（平成30年6月11日付け教文第552号）。

平成30年4月26日、事業者に対し本発掘調査の完了を報告し（富市文発第106号）、5月23日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第184号）を提出した。その後、業務委託金の精算をもって、発掘作業に関する業務委託契約が終了した。

以下、4次調査の経過を調査日誌および週報より抜粋し記載する。

平成30年4月3日（火）

2工区、表土掘削。GL-2.0mまで掘削し、法面は斜度45°でオープンカット。

南東隅に3.5mの深さでかま湯を設定。かま湯壁面の深さ約3.0mで黒色遺物包含層（I工区II層）を確認。

工区下端に沿って、重機（0.1BH）で浅溝を掘削。浅溝の内側に幅1mの土手を残し、側溝を掘削。II層の拂土から遺物回収。

側溝内側をGL-2.7～2.8mまで重機（0.45BH）で掘り下げ、人力精査を開始。全体を均一に下げる。II層上面で止めたところ、II層が緩やかに落ち込む部分が平面や断面で確認される。遺構の可能性あり。

4月4日（水）

2工区、精査。大畦畔（KH4001）と畦畔2本（KH4002・4003）、水路（SD4001）を確認。検出状況の写真撮影（デジタル+フィルム）、TS測量。

土層の再検討を行い、2工区の土層をI～VII層に分ける。I工区II層は2工区VII層に対応。

東西方向に畦畔と水路を切るベルトを2本設定。

4月5日（木）

2工区南壁のKH4001セクションを分層し、写真撮影。

SD4001覆土を南から人力掘削開始。

工区東壁セクションをTS測量。

4月6日（金）

雨のため現場中止。

- 4月9日（月）
SD4001 人力掘削。KH4003 西壁断面手実測、写真撮影。KH4003 に伴う造構（KH4003SX01）を完掘。KH4003 上端を TS 测量、レベリング。工区東壁セクション図に土層注記。VII層とIX層を確認。南壁 KH4001 セクションを TS 测量。
- 4月10日（火）
SD4001、南部と中部（ベルトを境とする）を完掘。平面図の TS 测量とレベリング。南壁 KH4001 セクションに土層注記。
- 4月11日（水）
2工区側溝外側の土手を畦畔上面まで重機で掘削。SD4001 北部を人力掘削。ピット1 基検出し半裁（Pit4001）。KH4002SX01 の東西断面写真撮影、のち完掘。
- 4月12日（木）
SD4001 北部を完掘。KH4002SX01 の平面・断面を TS 测量。KH4002SX02 の南北断面写真撮影、のち完掘。
2工区全景写真撮影（南東から）。
側溝土手を畦畔上面まで掘り下げ、側溝を深掘り。Pit4001 断面写真撮影、のち完掘。
- 4月13日（金）
2工区全景写真撮影（北から）。
畦畔盛土を SD4001 底面と同じ高さまで掘削。北側ベルトの北壁 SD4001 土層を写真撮影。Pit4001 完掘写真撮影。側溝土手を掘削し、遺物回収。
- 4月16日（月）
休日中の大雨で工区内が水没したため、復旧作業。
側溝（南・西）の重機掘削、排土からの遺物回収。SD4001 北部のレベリング。Pit4001 平面およびエレベーション、TS 测量。
- 4月17日（火）
側溝（東）の重機掘削、排土からの遺物回収。畦畔盛土（VII層）の人力掘削、遺物回収。砂層（IX層）上面を掘削停止面とする。
- 4月18日（水）
砂層（IX層）上面までの人力掘削、1ブロック（南北ベルトより南）は完了。2ブロック（南北ベルトと南北ベルトの間）のVII層（あるいはVIII層）中で木製品出土、出土状況写真撮影。
- 4月19日（木）
畦畔盛土（VII層）の人力掘削。木製品の出土状況写真撮影、のち PC 点上げ（R0051～0056）。
2工区上端および下端、TS 测量。
- 4月20日（金）
2ブロック・3ブロック（北ベルトより北）掘削。南北ベルト東西セクション TS 测量、写真撮影。
3ブロック東で完形の坏等出土（SK4001）。
- 4月23日（月）
2ブロック・3ブロック掘削。北ベルト・南ベルト、セクション写真撮影。北ベルト東西セクション図手実測、土層注記。
- SK4001 写真撮影、セクション図手実測、出土遺物のオルソー写真撮影、PC 点上げ。SX4001（遺物集中地点）出土遺物のオルソー写真撮影、PC 点上げ。北ベルト・南ベルトの解体、遺物回収。
- 4月24日（火）
北ベルト解体、遺物回収。解体中に木製品が出土、写真撮影、PC 点上げ。SX4001 で坏1点検出、写真撮影、PC 点上げ。SK4001 掘削、遺物回収。
- 2工区側溝西土手のVII層を掘削、木製品出土。現場に留める。
- 4月25日（水）
雨のため現場中止。
- 4月26日（木）
SK4001 平面 TS 测量、完掘写真撮影。
木製品（第27図36）の出土状況写真撮影、オルソー用写真撮影、PC 点上げ。
- 機材・道具類撤収。ブルーシート等片づけ。
- 2工区東側溝の下端より約10cmの深さで弥生土器を採取したため、重機で深掘り。X層（植物遺存体を多く含む砂質層）の下で縄文土器・弥生土器包含層の黒色土（XⅠ層）を確認し、縄文土器・弥生土器・石器を回収した。XⅠ層の下は溶岩石を多量に含む層（XⅡ層）となる。
- 現場作業終了。
- 4月27日（金）
現場道具の片づけ。出土木製品の管理業務。
- 5月8日（火）～11日（金）
出土木製品の洗浄・写真撮影・整理。

第2節 整理作業の経緯と経過

平成30年3月7日に事業者と富士市、市教育委員会の三者間で締結した文化財調査に関する協定に基づき、発掘作業が終了した翌年度の平成31年4月1日、整理作業にかかる業務委託契約が事業者と富士市長の二者間で締結された。

その後、①遺物洗浄、②遺物注記、③遺物接合・復元、④遺物図化・写真撮影、⑤遺構編集、⑥文章

執筆、⑦報告書編集といった整理作業を開始した。

令和2年3月31日、本書を刊行し、業務委託金の精算をもって、整理作業にかかる業務委託契約が終了した。

これにより、沖田遺跡第155次調査地点の埋蔵文化財発掘調査にかかる一連の作業はすべて終了となる。

第3節 調査の体制

沖田遺跡第155次調査地点に関する一連の調査は、以下の体制で実施した。

（平成29年度）【2次調査、3次調査】

【調査主体】富士市教育委員会 教育長 山田 幸男
 【担当機関】富士市役所市民部 部長 高野 浩一
 文化振興課 課長 久保田伸彦
 文化財担当 統括主幹 植松 良夫
 主幹 石川 武男
 調査担当者 主査 佐藤 祐樹
 主事補 伊藤 愛
 調査員 服部 孝信
 小島 利史
 若林 美希

（平成30年度）【4次調査】

【調査主体】富士市教育委員会 教育長 山田 幸男
 【担当機関】富士市役所市民部 部長 高野 浩一
 文化振興課 課長 久保田伸彦
 文化財担当 統括主幹 植松 良夫
 主幹 石川 武男
 調査担当者 主査 佐藤 祐樹
 主事 伊藤 愛
 調査員 小島 利史
 若林 美希

（平成31年度）【整理作業】

【調査主体】富士市教育委員会 教育長 森田 嘉幸
 【担当機関】富士市役所市民部 部長 高野 浩一
 文化振興課 課長 久保田伸彦
 文化財担当 統括主幹 植松 良夫
 主幹 石川 武男
 調査担当者 主査 佐藤 祐樹
 上席主事 藤村 翔
 調査員 小島 利史
 若林 美希
 志崎江莉子

なお、木製品の取り扱いについては、中川律子氏（静岡県埋蔵文化財センター）に指導いただいた。



第6図 調査指導風景

第2章 沖田遺跡の概要

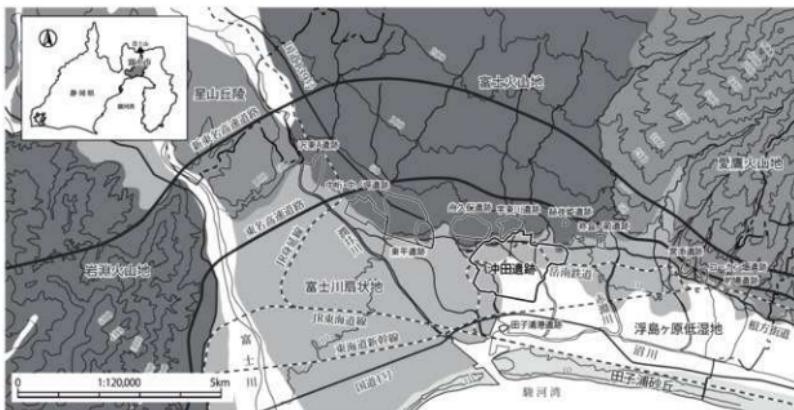
第1節 地理的環境

沖田遺跡が所在する富士市は、静岡県の東部、富士山南麓に位置し、駿河湾を南に臨む。西には岩本山を有する星山丘陵と岩瀬火山地が、東にはすでに火山としての活動を停止している愛鷹山が存在する。星山丘陵と岩瀬火山地の間には、北方の長野県・山梨県から流下する富士川が駿河湾に注ぎ、富士山西麓を源とする潤井川が富士川扇状地を水量豊かに流れ、田子の浦港に至る。海岸沿いには田子浦砂丘が発達し、田子浦砂丘と愛鷹山麓に挟まれて浮島ヶ原低地が存在する。瀧川・須津川・赤瀧川・春山川など多数の河川が山麓から南流し、浮島ヶ原低地を西流する沼川に合流して、田子の浦港に至る。

地形の基盤のひとつである富士山の噴火活動は、小御岳火山の噴火（数十万年前）に始まり、古富士火山（80,000年前～16,000年前）、新富士火山（14,000年前～現在）と大きく3期に分けられる。不透水性の古富士泥流の上に透水性の新富士火山溶岩流が広がるため、新富士火山溶岩流の末端には数多くの湧水地が存在する。

沖田遺跡は、浮島ヶ原低地の西北端から、その北側の丘陵末端部にかけて立地する。主に弥生時代から奈良・平安時代にかけての集落跡・生産遺跡（水田）である。浮島ヶ原低地は、東西は富士川扇状地から狩野川下流の扇状地までの約14.5km、南北は愛鷹山麓と田子浦砂丘に挟まれた約2.0kmに広がる、海拔平均5m以下の低湿地である。約8,000年前以前には内湾であったが、富士川や狩野川が運ぶ砂礫によって田子浦砂丘が発達するのに伴い、約7,000～6,000年前頃（縄文前期）には潟湖（ラグーン）になり、約6,000～5,000年前頃（縄文前～中期）には湾が完全に閉塞され沼沢地・湿地化した（浮島沼）。

古墳時代には浮島沼の西岸と東岸を結ぶ水上交通が発達・整備されていたと考えられている。現在、田子の浦港が所在する潤井川・沼川の河口部には、古代から天然の港湾（吉原湊）が発達しており、ここに立地する沖田遺跡は、外海と浮島ヶ原水上交通網を結ぶ、情報やモノの玄関口としての機能も果たしていた。



第7図 沖田遺跡の位置

本書で報告する第155次調査地点は、沖田遺跡の北東部、丘陵末端部と浮島ヶ原に挟まれた標高約4mの低地に位置する。本地点の北西、E地点では、昭和24年の工事の際に縄文～奈良時代の土器が出土したという。

また、本地点の北200mほどに所在する春日神社境内で、本地点の調査期間中に勾玉1点と須恵器片が表採されている（第10図）。

Iは滑石製の勾玉である。全体に滑らかに丸みを帯びて先端は尖る。孔は両面から穿たれる。

2は須恵器壺の口縁部で、口縁端部は外側に肥厚し、断面三角形を呈する。外面には波状文が巡る。

春日神社は新富士火山溶岩流の末端、丘陵が最も南に張り出した部分に建立されており、富士山の噴火（溶岩）を鎮める祭祀が行われた可能性も想定できる。

第2節 歴史的環境

沖田遺跡は、昭和38年（1963）の岳南排水路埋設工事の際に、地表下3～7mの深さから土器片や木製品が大量に出土したことにより発見され（A・B・C地点）、これまでに114件の発掘調査が実施されている（試掘・確認調査108件、本発掘調査6件、令和2年3月現在、第9図・第1表）。

沖田遺跡の調査成果に基づいて浮島沼の湖沼利用の推移について考察した藤村翔の論考（藤村2017）を基に、縄文時代から奈良・平安時代まで、時代ごとの状況について概観する。

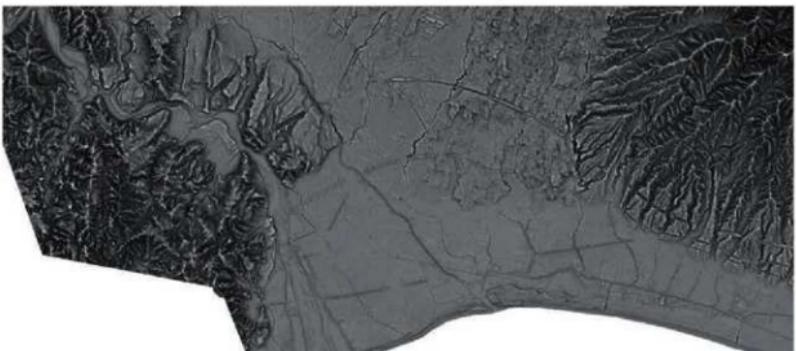
縄文時代

縄文時代の遺構は未確認であるが、平成8年に調査が行われた87・92次調査地点において、縄文土器片が出土している。これらは中期後半（加曾利E3・E4式期）から後期前半（堀之内式期）が主体となるようである。また、未報告であるが、昭和

24年にE地点で出土したとされる縄文土器片も同時期に位置づけられるものである。

以上の2地点は、いずれも沖田遺跡の北端近く、現地表面標高5.0m以上の微高地に位置している。沖田遺跡の北側には富士火山地を基盤とする丘陵が広がり、この丘陵上には、宇東川遺跡や赫夜姫遺跡といった、中期後半から後期に盛行する集落跡が立地している。沖田遺跡の縄文時代集落も、これらの丘陵上の集落と連動して営まれたものと考えられる。また、宇東川遺跡や、同じく浮島沼北岸に立地するコーカン畑遺跡、的場遺跡などでは漁網用とみられる石錐が出土しており、浮島沼や周辺河川において網漁が行われていたと推定される。

沖田遺跡では石錐の出土はまだ見られないが、これらの集落と同様に浮島沼での漁撈を行っていた可能性がある。



第8図 富士山南麓の地形（国土交通省富士砂防事務所 提供）

弥生時代

弥生時代の明確な遺構も未発見であるが、昭和38年の工事に伴ってB地点から出土したと伝わる土器が、弥生時代中期後葉の東駿河Ⅲ様式期に相当するものと位置づけられている。B地点は現地表面標高が2.4mほどの低地に位置する。さらに、後期の雌鹿塚様式期に位置づけられる遺物が、116次調査地点、133次調査地点、155次調査地点など、低地部を含めた遺跡内の各所で確認されている。

浮島沼北岸に立地する的場遺跡では、雌鹿塚式期の堅穴建物跡から有頭石錐と大陸系磨製石器である扁平片刃石斧が出土しており、浮島沼沿岸で縄文時代以来の漁撈とともに小規模な水田経営が始まつたものと想定されている。

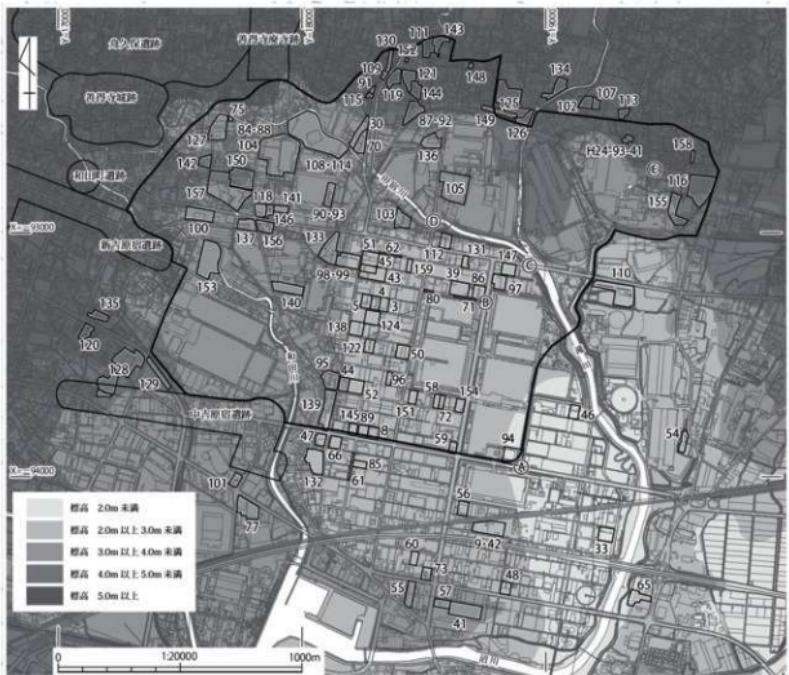
沖田遺跡においても、縄文時代の微高地の集落から、低地へ、浮島沼沿岸へと生活域が進出し、小規模水田での稻作が始まった可能性が考えられる。

古墳時代

古墳時代も、堅穴建物跡などの明確な遺構は未発見であるが、遺跡範囲内に広く土師器の貯蔵具（壺）や煮炊具（甕）の出土が確認できるようになり、集落の規模が弥生時代に比べて拡大したことが推定される。

和田川と田宿川に挟まれた低地部に位置する133次調査地点では、地表下4mから、準構造船を転用した木棺とともに、面径6.35cmの青銅鏡、滑石製勾玉、人骨、人齒が検出されており、古墳時代前期後半に位置づけられる低墳丘墓の存在が確認された。この低地部は遺跡内の中心的な集落域・墓域であったと考えられるが、中期後半以降、その有り様は不明瞭となる。

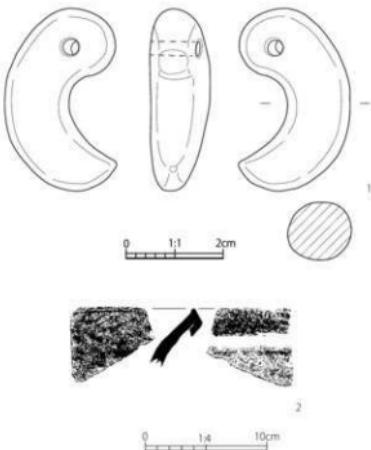
遺跡北寄りの台地末端では、縄文・弥生時代からの伝統的な集落が古墳時代後期まで継続して営まれている。



中期以降に河川の氾濫が活発化し、5世紀末ごろには富士山噴火により大瀬スコリアが浮島沼西半部一帯へ降灰、また6～7世紀には大規模地震に由来する浮島沼の水位上昇・地盤沈降があったとも想定されており、自然環境の不安定な状況が重なった結果、低地部の集落が放棄された可能性が考えられている。

水田農耕に関わる遺構として、畦畔や閑連する堆積層が広範囲で確認されている。87・92次調査地点では、杭や木材を伴わない盛土小畦畔が小区画を形成している様子が面的に確認された。遺跡内では煮炊具を出土する地点と水田閑連遺構が入り乱れて分布しており、小規模な水田が集落に近接する形で営まれていたようである。

133次調査地点で出土した、棺に転用された準構造船は、低い舷側板と浅い船底を有し、浮島沼や周辺河川のような浅瀬に適した構造の小型船である。



第10図 春日神社境内採集の資料



第11図 沖田道跡周辺の地形（国土交通省富士砂防事務所 提供）

表1 沖田遺跡調査履歴一覧

調査年度	調査 地名	調査 地點	次	調査 種類	所在地	調査の契機	調査期間	時代	遺構	遺物	備考
S38	A 地点	工事見						弥生～古墳	なし	土器・木製品	
S38	B 地点	工事見						弥生～古墳	なし	土器・木製品	
S38	C 地点	工事見						弥生～古墳	なし	土器・木製品	
S24	E 地点	工事見						古墳	なし	土器	
S24								弥生～古墳・奈良	なし	土器	
S60	3	試掘	今泉 429-3	工場建設	19860203				なし	なし	
S60	4	試掘	今泉 429-4	仓库建設	19860203				なし	なし	
S60	5	試掘	今泉 429-5	仓库建設	19860203				なし	なし	
S60	8	試掘	今泉 331-1 外	駐車場造成	19860217				なし	なし	
661	9	試掘	飯田橋 361-2 外	仓库建設	19860228				なし	なし	
H02	30	試掘	宇都宮市町 8-1 外	駐車場造成	19900406				なし	なし	
H02	33	試掘	飯田橋 419-5	仓库建設	19900524 ~ 19900525				なし	なし	
H02	39	試掘	今泉 454-2 外	平野所建設	19910107				なし	なし	
H02	41	試掘	飯田橋 201-1 外	仓库建設	19910128 ~ 19910219				なし	なし	
H02	42	試掘	飯田橋 257 外	仓库建設	19910225				なし	なし	
H02	43	試掘	今泉 463-1 外	仓库建設	19910305 ~ 19910306 弥生～古墳				なし	土器・木器	
H03	44	試掘	今泉 355-1 外	仓库建設	19910415				なし	なし	
H03	45	試掘	今泉 464-2 外	仓库建設	19910415 ~ 19910509 古墳				溝道遺構・土坑	土器・木器	
H03	46	試掘	今泉 800-1 外	仓库建設	19910416				なし	なし	
H03	47	試掘	飯田橋 601-1 外	通路施設建設	19910715				なし	なし	
H03	48	試掘	今泉 334-3 外	工場建設	19910624				なし	なし	
H03	50	試掘	今泉 386-3 外	仓库建設	19911007 ~ 19911011 古墳				なし	土器器・木器	
H03	51	試掘	今泉 466-1 外	仓库建設	19911112 ~ 19911118				なし	土器器・木器	
H03	52	試掘	今泉 354-1 外	駐車場造成	19920323				なし	なし	
H04	54	試掘	比治 497-1 外	仓库建設	19920423				なし	なし	
H04	55	試掘	飯田橋 187-1 外	仓库建設	19920611				なし	なし	
H04	56	試掘	飯田橋 270-1 外	資料置場造成	19920715 ~ 19920717				なし	なし	
H04	57	試掘	飯田橋 204-1 外	仓库建設	19920820				なし	なし	
H04	58	試掘	今泉 416-1 外	工場建設	19920903				なし	なし	
H04	59	試掘	今泉 645-1	事務所建設	19921216				なし	なし	
H04	60	試掘	飯田橋 163-1	駐車場造成	19930118				なし	なし	
H05	64	試掘	飯田橋 107-2 外	道路改良	19930728 ~ 19930730				なし	なし	
H05	62	試掘	今泉 469-1 外	道路改良	19930818 ~ 19930823 古墳				なし	土器器・須恵器・木製品	
H05	65	試掘	今井 295-1 外	資材貯蔵造成	19931104				なし	なし	
H05	66	試掘	今泉 323-2 外	工場建設	19931206				なし	なし	
H06	70	試掘	宇都宮西町 7-2	店舗建設	19940705				なし	なし	
H06	71	試掘	今泉 453-1 外	道路改良	19940722 弥生・古墳・奈良				なし	土器片	
H06	72	試掘	今泉 615-2	仓库建設	19940914 ~ 19940915				なし	なし	
H06	73	試掘	飯田橋 174-1 外	事務所建設	19941027 ~ 19941028				なし	なし	
H06	75	試掘	今井 2 丁目 9-30	洞窟防護壁建設	19941220				なし	なし	
H06	77	試掘	三島 132-1 外	耐震建設計	19950310				なし	なし	
H07	80	試掘	今泉 453-3 外	道路改良	19950918				なし	なし	
H07	84	試掘	今泉 3 丁目 153-1 外	店舗建設	19960622 ~ 19960630				水田	土器器	A
H07	85	試掘	今泉 216-2 外	事務所建設	19960624				なし	なし	
H08	86	試掘	今泉 453-1 外	事務所建設	19960812				なし	なし	
H08	87	試掘	原田 56 外	店舗建設	19960801 ~ 19960808 合併				水田	土器器・木製品	H
H08	88	本塗掘	今泉 3 丁目 153-1 外	店舗建設	19960824 ~ 19960715 錆合				水田・昭和・木製品・瓦桶向器（墨書）	A	
H08	89	試掘	今泉 330-1 外	駐車場造成	19960826 ~ 19960828 奈良・平安				水田耕作土		
H08	90	試掘	今泉 3 丁目 17-1	小学校ブール造成	19960703						H
H08	91	試掘	宇都宮西町 15 外	道路改良	19960819 ~ 19960824 古墳・奈良・平安				水田	土器器・杭	
H08	92	本塗掘	原田 56 外	店舗建設	19960902 ~ 19961129 古墳・合併				水田・昭和器・木製品		
H08	93	本塗掘	今泉 3 丁目 17-1	小学校ブール造成	19960913 古墳・律令				水田・昭和・木製品		
H08	94	試掘	今泉 700-1	事務所建設	19961028 ~ 19961029				なし	なし	
H09	95	試掘	飯田橋 648-1 外	開発セシナービル	19970423				なし	なし	
H09	97	試掘	今泉 543-2 外	仓库建設	19970811 ~ 19970813 弥生・古墳				水田・昭和（？）・瓦・器・木製品		
H09	98	試掘	新町町 205-4 外	仓库建設	19970825 ~ 19970926 奈良・平安				杭例		
H09	99	試掘	新町町 205-4 外	仓库建設	19971027 ~ 19971030 奈良・平安				なし		
H09	100	試掘	今泉 1 丁目 64-19 外	店舗建設	19980309 ~ 19980310				なし	なし	
H10	101	試掘	八代町 53	店舗建設	19980605 ~ 19980612				なし	なし	
H10	102	試掘	比治 750-1 外	工場・仓库建設	19980624				なし	なし	
H10	103	試掘	今泉 508-3 外	仓库建設	19980709				なし	なし	
H10	104	本塗掘	今泉 3 丁目 153-1 外	店舗建設	19980727 ~ 19981008 古墳周辺・平安				杭例		
H10	105	試掘	原田 100	仓库建設	19981005 ~ 19981013				なし	なし	
H10	107	試掘	比治 760-1 外	工場・仓库建設	19981116				なし	なし	
H10	108	試掘	今泉 3 丁目 146-1 外	店舗建設	19981203 ~ 19981225 奈良・平安				水田・大判瓦	なし	
H10	109	試掘	宇都宮市町 34-1 外	道路改良	19990204 ~ 19990317				なし	なし	
H11	110	試掘	比治 696-1 外	店舗建設	19990517				なし	なし	1
H11	111	試掘	宇都宮東町 539-7 外	地盤造成	19990524 ~ 19990608 平安・中世・近世				瓦桶器・土器片	1	
H11	112	試掘	今泉 500-1 外	商業所建設	19990608 ~ 19990630				なし	なし	1
H11	113	試掘	比治 760-1 外	事務所増築	19991115 ~ 19991119				なし	なし	1
H11	114	試掘	今泉 3 丁目 146-1 外	完廻造成	19991214 ~ 19991224 古墳・奈良・平安				土器片	1	

調査年度	調査区分	調査地番	次	調査種別	所在地	調査の実施者	調査期間	時代	遺構	遺物	備考
H11		115	試掘	宇多川町 11-9 外	左富士臨海埋没改良	1999/12/20 ~ 1999/12/21		なし	なし	なし	I
H12		116	試掘	比奈 938-1 外	古墳遷移等造成	2000/8/22 ~ 2000/8/25	占墳・奈良・平安	飛鳥寺	土師器・須恵器	土師器・須恵器	I
H12		118	試掘	今泉 3 丁目 158-1 外	店舗建設	2000/10/4 ~ 2000/10/5	占墳・奈良・平安	大野町 [奈良→平安]	土師器 [古拂]	土師器 [古拂]	I
H13		119	試掘	宇多川町 58-1 外	宅地造成	2001/6/22 ~ 2001/6/25	占墳・奈良	なし	土師器・須恵器・本製品	F	
H13		120	試掘	伝法 365-1 号	店舗・旅館建設	2001/9/26 ~ 2001/9/27		なし	なし	なし	F
H13		121	試掘	宇多川町 50-1 外	非燃焼埋設	2001/10/9 ~ 2001/10/15	占墳・奈良・平安	住居跡	土師器・須恵器・火灰陶器・漆器土器	F	
H13		122	試掘	今泉 383-5 号	倉庫・事務所建設	2002/10/22 ~ 2002/10/24		なし	なし	なし	F
H14		124	試掘	今泉 408-4 外	駐車場造成	2003/1/26 ~ 2003/1/29		なし	なし	E	
H16		125	試掘	原町 199-11 号	店舗建設	2004/6/26 ~ 2004/6/30		なし	なし	B	
H16		126	試掘	原町 301-3 外	道路確認依頼	2004/10/25 ~ 2004/10/27		なし	なし	B	
H16		127	試掘	今泉 2 丁目 127-6 号	宅地造成	2004/11/29 ~ 2004/12/08	奈良→平安	水田	木片	B	
H17		128	試掘	宇田町 3691-7 外	店舗建設	2005/6/22 ~ 2005/6/28		なし	なし	C	
H17		129	試掘	花島 185 号	道路建設	2005/6/26		なし	なし	C	
H17		130	試掘	宇田町 37-33	道路建設	2005/10/8 ~ 2005/10/20		なし	なし	C	
H17		131	試掘	今泉 480-8	T 構建設	2006/6/20?		なし	なし	C	
H18		132	試掘	依佐美 644-1 外	住宅地造成	2006/6/24 ~ 2006/6/25		なし	なし	C	
H18		133	試掘	新町 1983-3 外	店舗建設	2006/6/27 ~ 2006/6/28	占墳	柱	土器片・唐物造形・金銀製品 (銅鏡)	C	
H18		134	試掘	原町 319-1 外	倉庫建設	2006/7/06		なし	なし	C	
H18		135	試掘	南町 3651-2 号	住宅地造成	2006/7/07		なし	なし	C	
H18		136	試掘	原町 127 - 6	施設シルバー改築	2006/12/13	奈良→平安	水田	なし	C	
H18		137	試掘	新町 218-1 外	共用住宅建設	2006/12/13 ~ 2006/12/15	秀生	なし	土器片・本製品	C	
H18		138	試掘	今泉 406 - 2 外	倉庫建設	2007/6/16 ~ 2007/6/18	占墳	なし	土器片	C	
H19	H19-03	139	試掘	依田橋町 642-1 外	排水処理施設等整備	2007/5/24 ~ 2007/5/28	不明	水田耕作土 3 面	なし	D	
H19	H19-09	140	試掘	新町 237-1 外	倉庫建設	2007/6/02	奈良→平安?	水田	なし	D	
H19	H19-14	141	試掘	今泉 3 丁目 158-5 号	道路確認依頼	2007/1/19	奈良→平安?	水田耕作土	なし	D	
H19	H19-19	142	試掘	今泉 2 丁目 97-2 外	倉庫建設	2007/1/19	なし	なし	D		
H21	H21-01	143	試掘	宇田町 513-6 井	空堀造成	2009/6/09 ~ 2009/6/10		なし	なし	G	
H21	H21-15	144	試掘	宇田川町 50-2 外	集合住宅建設	2010/03/27		なし	なし	G	
H21	H21-16	145	試掘	今泉 329-1 井	集合建設	2010/6/20		なし	なし	G	
H22	H22-01	146	試掘	今泉 3 丁目 158-7 外	集合住宅建設	2010/6/08		なし	なし	J	
H23	H23-11	147	試掘	今泉 534-1 井	潤井依頼	2010/1/11 ~ 2010/1/12	占墳	なし	土師器	J	
H24	H24-23	148	試掘	宇田川町 168-1	不動産売買	2010/3/05		なし	なし	K	
H24	H24-34	149	立会	比奈 843-1 外	宅地造成	2013/7/22	秀生後期 占墳後期～7世紀	豊穴建物跡 2 件 奈良土器・土師器・瓦	奈良土器・土師器・瓦	K	
H25	H25-09	149	確認	原町 214, 215 井	非燃焼埋設	2013/07/26		なし	なし	K	
H25	H25-10	150	確認	今泉 1 丁目 86 1 番	宅地造成	2013/07/22 ~ 2013/07/25	奈良・平安	水田跡 木器	奈良土器・土師器・木器	K	
H25	H25-22	151	確認	今泉 619-1, 618-2	木造新築	2013/10/21		なし	なし	K	
H27	H27-12	152	確認	宇田川町 42-6	旅館建設	2015/07/12		なし	なし	L	
H27	H27-16	153	確認	吉原 1 丁目 1 番 1	工場新築	2015/08/19 ~ 2015/08/21		なし	なし	L	
H28	H28-01	154	確認	今泉 612-1 井	工場新築	2016/6/04		なし	なし	M	
H28	H28-26	155	1 次	確認	比奈 643 番 1 外	不動産売買	2016/11/17 ~ 2016/11/18	秀生・奈良・平安	なし	奈良土器・土師器・瓦 瓦器・鏡・ビット	M
H29	H29-34	155	2 次	確認	比奈 643 番 1 井	工場新築	2018/01/31	秀生・奈良・平安	不明	奈良土器・土師器	本書
H29	H29-104	155	3 次	本契約	比奈 643 番 1	工場新築	2018/03/07 ~ 2018/03/27	國文・奈良・古墳 ・奈良・平安	不明	奈良土器・本契約	本書
H30	H30-10	155	4 次	本契約	比奈 643 番 1	工場新築	2018/04/03 ~ 2018/05/11	國文・奈良・古墳 ・奈良・平安	瓦器・鏡・ビット 瓦器・鏡・ビット 土器・瓦・植物葉型 瓦器・鏡・石器	本書	
H28	H28-32	156	確認	新町 227-1	店舗建設	2016/12/19 ~ 2016/12/21	秀生・奈良・平安	なし	奈良土器・土師器	M	
H29	H29-11	157	1 次	確認	今泉 1 丁目 84 1 番	不動産賃貸	2017/07/27	なし	なし	N	
H30	H30-02	157	2 次	確認	今泉 1 丁目 81 5 番 5 外	工場新築	2018/08/12	なし	なし	O	
H30	H30-27	158	確認	比奈 967-2	不動産買賣	2018/07/30 ~ 2018/08/01	秀生・古墳・奈良 ・平安	土器・ビット 瓦器・鏡・金葉製品	O		
H31	H31-50	159	確認	今泉 470-3	工場新築	2019/12/10 ~ 2019/12/11	なし	なし			

報告書 A 「仲介道筋」(2000)

B 「平成 16 年度 富士市内造跡分譲調査報告書」(2006)

C 「平成 17・18 年度 富士市内造跡分譲調査報告書」(2008)

D 「平成 19・20 年度 富士市内造跡分譲調査報告書」(2009)

E 「平成 20・21 年度 富士市内造跡分譲調査報告書」(2010)

F 「平成 21 年度 富士市内跡・伝法国宝・古墳跡 墓地財形付調査報告書」(2011)

G 「平成 21 年度 富士市内跡・伝法国宝・古墳跡 墓地財形付調査報告書」(2011)

H 「富士市埋蔵文化財調査報告書」富士市埋蔵文化財調査報告書 第 31 号 (2012)

I 「富士市内遺跡発掘調査報告書」平成 11・12 年度 富士市埋蔵文化財調査報告書 第 53 号 (2012)

J 「富士市内遺跡発掘調査報告書」平成 22・23 年度 富士市埋蔵文化財調査報告書 第 54 号 (2013)

K 「富士市内遺跡発掘調査報告書」平成 24・25 年度 富士市埋蔵文化財調査報告書 第 55 号 (2013)

L 「富士市内遺跡発掘調査報告書」平成 26・27 年度 富士市埋蔵文化財調査報告書 第 56 号 (2017)

M 「富士市内遺跡発掘調査報告書」平成 28 年度 富士市埋蔵文化財調査報告書 第 57 号 (2017)

N 「富士市内遺跡発掘調査報告書」平成 29 年度 富士市埋蔵文化財調査報告書 第 58 号 (2019)

O 「富士市内遺跡発掘調査報告書」平成 30 年度 富士市埋蔵文化財調査報告書 第 59 号 (2019)

専一部を除き、「工事立合会」については省略している。

専一部で 24 年度まで「丘陵地帯の外に開けた「アーチ状」試掘調査」として「アーチ状」と「アーチ状」の外に開けた「V 形」試掘調査を「V 形試掘調査」と記述している。

丘陵地帯の外に開けた「V 形」試掘調査」と区別している。

※報告書はすべて富士市教育委員会によるものである。

古墳時代前期初頭には、吉原湊（田子浦港遺跡周辺）一浮島沼周辺で外洋船と小型船を組み合わせた水上交通網が形成されており、その玄関口にあたる沖田遺跡で浮島沼水運網の実務を担った指導者層が、準構造船を転用した棺に埋葬された被葬者と考えられる。

奈良・平安時代

奈良・平安時代になると、遺物の出土数が減少し、出土地点も遺跡北側の丘陵末端・微高地上に集中するようになり、低地部には集落的な要素が認められなくなる。

奈良時代に富士山南麓地域が駿河国富士郡として管理されるようになると、郡家が置かれた東平遺跡に政治・宗教・交易の機能を集中させるため、郡内集落の再編が進められる。街道も東平遺跡周辺を通るように整備されるなかで、浮島沼北縁に沿って東西に抜ける根方街道が重視され、集落が遺跡北側に集中するようになったと考えられる。

沖田遺跡の北に位置する宇東川遺跡は依然としてこの地域の拠点的集落であり、沖田遺跡の集落としての機能は宇東川遺跡や他の周辺集落に分散した可能性がある。

集落が希薄になる一方で、水田関連遺構は遺跡内に広く認められるようになる。84・88・104次調査地点では、頂部に灌溉用水路が掘られた、底部幅5.6m以上の大畦畔が確認されている。この畦畔盛土上面からは838年噴出の神津島天上山テフラが検出されており、少なくともその年代までは畦畔として機能していたと考えられる。87・92次調査地点においても東西方向の大畦畔と小畦畔3本が確認されている。このように、発掘調査により平面および断面で検出された水田関連遺構からは、低地部の広範囲にわたって、大規模な条里型水田が営まれていたことが想定される。

参考文献

藤村 雄 2017「浮島沼西岸・沖田遺跡の調査からみた湖沼利用の推移」『館報』第32号 富士山かぐや姫ミュージアム



第12図 調査風景（1）



第13図 調査風景（2）



第14図 調査風景（3）



第15図 調査風景（4）

第3章 調査成果

第1節 基本土層

沖田遺跡第155次調査地点では、2工区(4次調査)において、表土下をI～XIIの12層に分層した。

ただし、確認調査(1・2次調査)および1工区(3次調査)とは土層番号が異なるため、対応関係を示す(第16図)。

I・IIIは旧水田耕作土である。2工区北部にのみ、この間に細砂層(II-1)とシルト層(II-2)が確認される。

IVは黒褐色砂礫層、VIIは黒褐色粘土層で、間のVはIVの砂とVIの粘土が互層を成す層である。VIIは1工区のIに対応する。

黒色粘土層VIIは奈良・平安時代を主とする遺物包含層である。確認調査および1工区のIIに対応する。

2工区で検出された畦畔と水路は、VIIの土を削り、盛ることで構築されている。このため、水路の覆土はVIに由来し、畦畔の盛土はVIIに由来する。2工区北壁でVIIが粘質土のVII-2と砂質土のVII-3に細分される部分がある。

VIIは粘土層、IXは砂層で、遺物が出土しない。

Xは植物遺存体を含む砂質層で、ここから出土した柱材とみられるクスノキの木片1点を図示している(第34図99)。

X Iは縄文時代と弥生時代の遺物包含層である。

地表面から3.9mほどの海拔0.15m付近で、拳大の溶岩を多量に含むX IIに到達する。

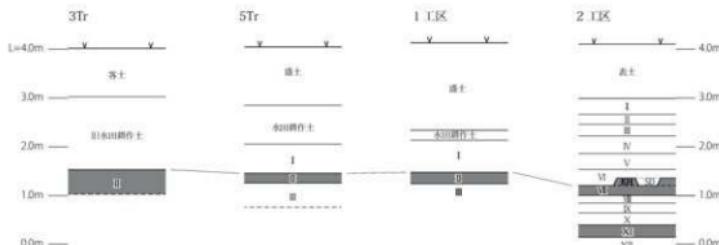
第2節 1工区

1工区では、地表面から2.6mほど掘り下げ、古代の遺物包含層である黒色土(II層)上面を検出したが、大量の湧水の影響もあり、平面観察・断面観察のどちらにおいても遺構が確認できなかった。

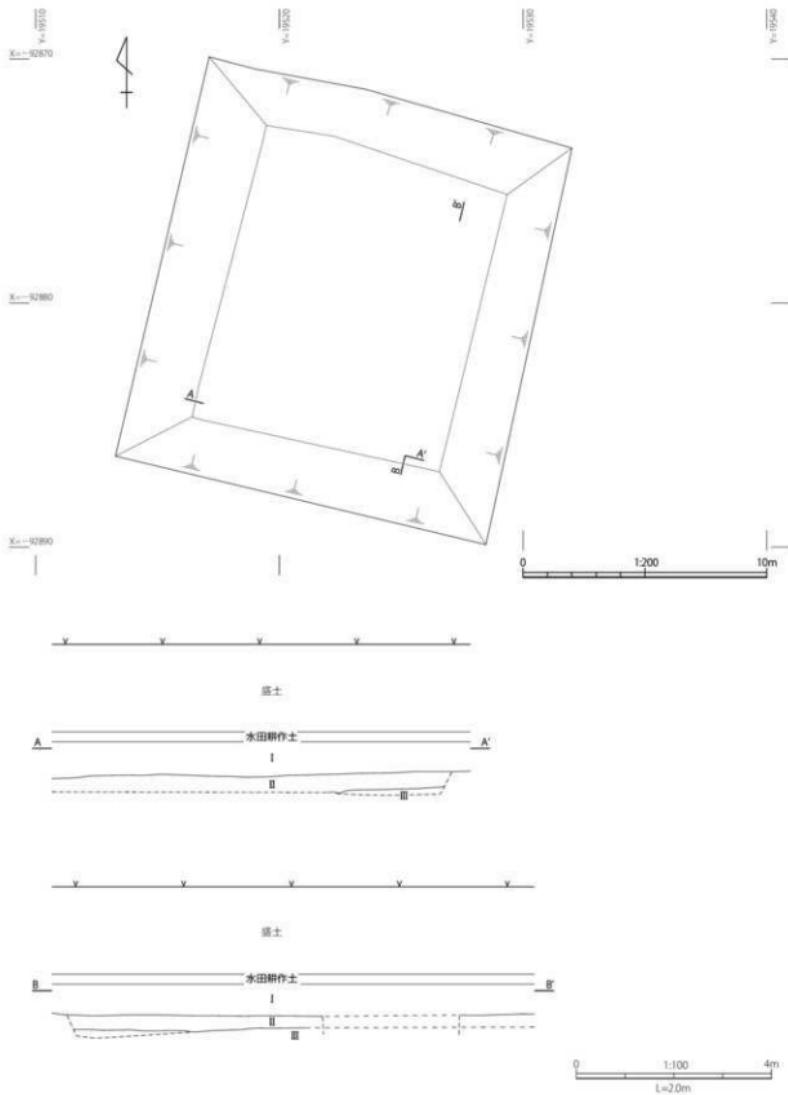
そのため、II層を掘り上げて、排土中からの遺物の回収に努めた。出土した遺物は縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・石器など、時代が混在している。

これらの遺物は元位置を留めておらず、調査地北側に存在したとみられる居住域から流れ込み、遺物包含層を形成したものと考えられる。

また、30cm前後の厚さで堆積するII層の下に、大淵スコリアを含まない黒褐色粘土層(III層)を確認した。



第16図 基本土層図



- I 黒褐色粘質土層 (10YR3/1) しまりややあり、粘性弱い。植物遺存体少量。下部に部分的に細粒的砂層がある。
- II 黒色粘質土層 (7.5YR2/1) しまりややあり、粘性強。大根177g質量。植物遺存体中量。砂少量。炭化物少量。 道地包含層
- III 黒褐色粘土層 (10YR2/2) しまりややあり、粘性強。黒色粘土層中量。植物遺存体少量。

第17図 1工区全体図・セクション図

湧水対策で掘削した側溝・かま場の堆土を含むII層中から出土した遺物のうち、土器17点、石器1点を図示した（第18図）。

1は縄文時代晚期の鉢の口縁部片である。口縁部は内済し、外面端部には縄文が施される。縄文より下部は沈線で方形に区画される。

2・3は弥生時代後期の壺である。2は外面に斜方向の細かい縄文が施され、3は内面にヨコヘラナデ、外面にはヨコヘラミガキが施される。

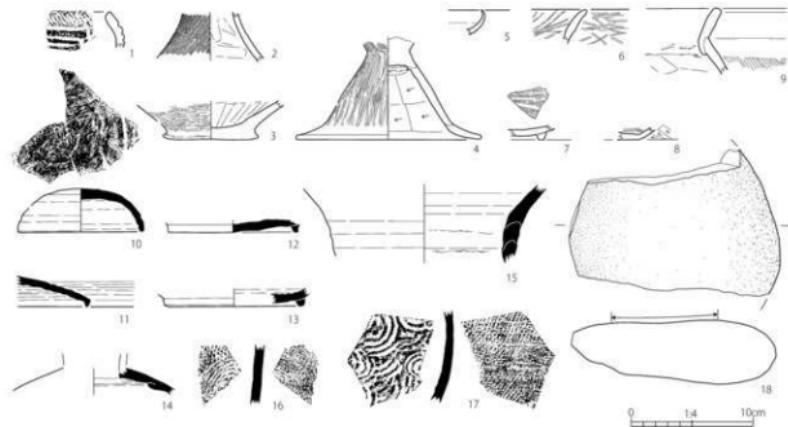
4から9は土器器である。4は古墳時代後期の高坏で、坏部は剥離して失われているが、坏部と脚部の境からハの字状に開き、緩く屈曲して裾部に至る。内面にはヨコヘラケズリ、外面にはハケメ調整の後、タテヘラミガキが施される。5は古墳時代後期と考えられる、内済する坏の口縁部である。6は外反する口縁部片で、内外面に細いヘラミガキが施される。時期は不明である。7是有台坏の底部片で、内面には放射状のヘラミガキが施される。外面は回転ケズリ後、断面逆台形の高台がつき、高台に沿って丁寧にヘラナデしている。9世紀代に位置づけられる。8は甲斐型坏の底部である。外面はヘラケズリされ、内面にはヨコヘラミガキが施される。体部が大きく

開くことから底径が縮小する段階と捉え、9世紀代に位置づけられる。9は壺の肩部から口縁部である。まっすぐにやや外に開く口縁部で、肥厚は認められない。口縁部は内面をハケメ調整後、ナデ調整し、肩部外面にはナナメハケメが認められる。7世紀のものである。

10から17は須恵器である。10は坏蓋である。返りはなく、口縁部と天井部の境に沈線が巡る。天井部は回転ヘラケズリされ、1本の直線がヘラ書きされる。径10.0cmと小型で丸みが強く、7世紀代に位置づけられる。11の坏蓋は、口縁端部の折り返しが小さく、丸みを帯びている。天井部には回転ヘラケズリが施され、自然軸が認められる。12・13は高台坏の底部である。いずれも底部外面をヘラケズリした後、断面逆台形の高台を貼り付けている。12は底部が下がり、高台と同じ高さで接地するようである。14は長頸瓶の肩部片である。肩は強く張り、内面には接合部が明瞭に残る。11から14は8世紀代に位置づけられる。

15・16・17は壺である。7世紀代の胴部片16・17は、外面にタタキメが、内面にオサエ痕が残る。

18は石皿である。中央に使用痕が認められる。



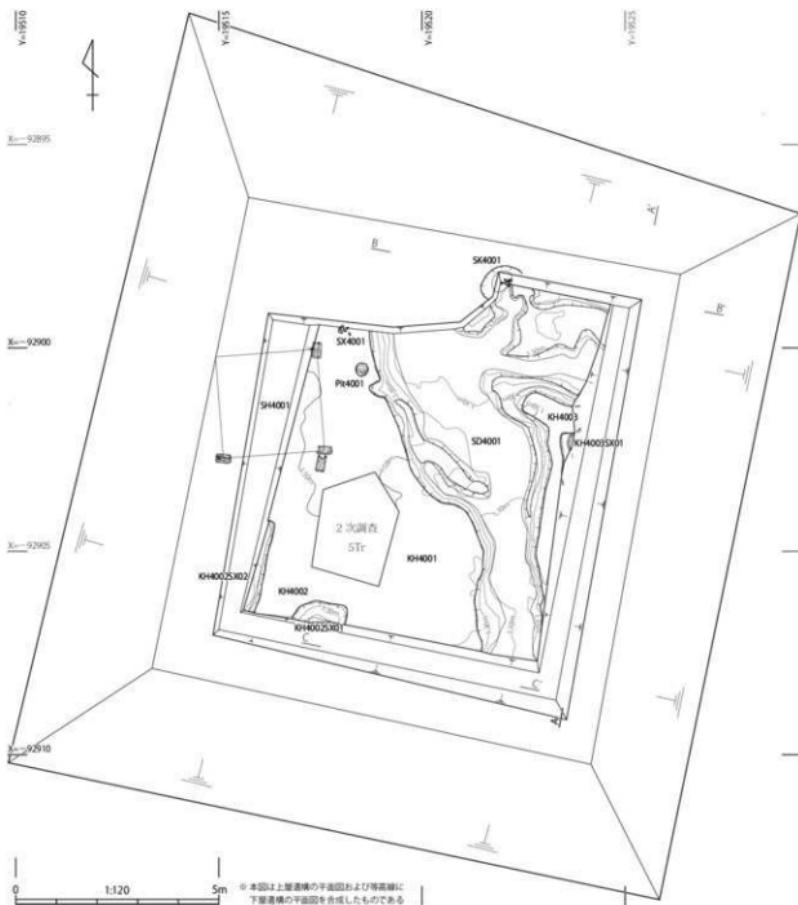
第18図 1工区造横外出土遺物実測図

第3節 2工区

2工区では、地表から約2.8mの深さで古代の遺物包含層（VII層）上面を検出し、この面での平面観察・断面観察により、VII層を盛土とする畦畔（KH4001～4003）と、水路（SD4001）、ピット（Pit4001）を検出・完掘した〔2工区上層遺構〕。

また、畦畔盛土およびVII層・VIII層を掘り上げる中で、掘立柱建物（SH4001）の礎板や、墨書き器が出土する土坑（SK4001）を検出した。

遺物集中地点（SX4001）は畦畔盛土中の遺物集中地点である〔2工区下層遺構〕。



第19図 2工区全体図

[2工区上層遺構]

KH4001

2工区の西半で検出された、南東から北西に延びる大畦畔の可能性がある遺構である。ただし、KH4001～KH4003は、畦畔と評価するよりも、後述するSD4001造成を目的とした土手状の盛土として評価すべき遺構の可能性もある。

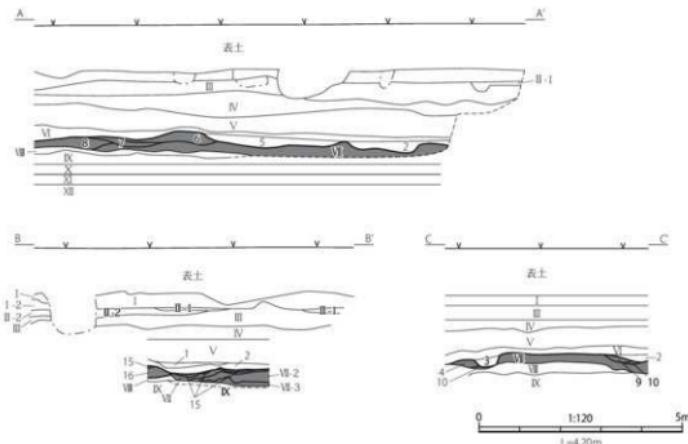
検出された部分の規模は、南北長約8.40m、東西幅約3.60mを測る。遺物包含層であるVII層の土を削り出し、それを盛土として本畦畔を含む3本の

畦畔と水路（SD4001）を築いている。

盛土中に9世紀代の遺物が含まれることや、盛土の下に9世紀中葉から後葉に位置づけられる土坑SK4001が存在することから、本畦畔は9世紀末から10世紀頃に築かれたものと考えられる。

KH4002

2工区の西南で検出された南北に延びる畦畔の可能性がある遺構である。KH4001の西南辺から分岐



I 黒褐色	(2.5Y3/2)	しまり中、粘性中。	旧水田耕作土
I-2 黒褐色	(10Y3/3)	シルト層、しまり中、粘性弱。鉄分が多く含む。	旧水田耕作土下層
II-I 黒褐色	(10Y3/3)	シルト層、しまり中、粘性弱。	
II-2 黒褐色	(10Y3/3)	シルト層、しまり中、粘性弱。砂とシルトの互層。	
III 黒褐色	(2.5Y3/2)	しまり中、粘性中。	旧水田耕作土
IV 黒褐色	(7.5YR2/2)	砂礫層、しまりなし、粘性なし。砂と径1～4cmの礫を含む。	
V 黒褐色	(7.5YR3/2)	砂+粘土層、しまり弱、粘性弱。粘土層とIV層の砂が互層。	
VI 黒褐色	(7.5YR2/2)	粘土層、しまり中、粘性中。	
VII 黒褐色	(7.5YR2/1)	粘土層、しまり中、粘性中。大潮スコリアを中量含む。	
VII-2 黒褐色	(10Y3/3)	粘質土層、しまりやや弱、粘性弱。植物遺存体中量、炭化材中量含む。	古代遺物包含層
VIII 黒褐色	(7.5YR2/1)	粘質土層、しまりやや弱、粘性弱。植物遺存体中量、炭化材中量（下層に多い）含む。	
IX 黒褐色	(7.5YR2/2)	粘土層、しまり中、粘性中。遺物を含まない。	
X 黑褐色	(10Y3/2)	砂+粘土層、しまりやや弱、粘性ややや。植物遺存体を多量含む。	共生遺物包含層（本文も含む）
XI 黒色	(10Y2/1)	しまりやや弱、粘性ややや。炭化材少量、礫中量含む。	
XII 黒色	(10Y2/1)	しまりやや弱、粘性ややや。礫の大岩を多量含む。	
1 黒色	(7.5YR2/1)	細砂層、しまりやや弱、粘性弱。植物遺存体中量含む。	SD4001 淹土
2 黒褐色	(2.5Y3/2)	細砂+粘土層、しまりあり、粘性あり。炭化材少量、植物遺存体少量含む。	SD4001 淹土
3 黒褐色	(7.5YR2/2)	粘土層、しまり中、粘性中。	KH4002S5X01 淹土
4 黒色	(7.5YR2/1)	粘土層、しまり中、粘性中。大潮スコリアを中量含む。VII層を基本とする柱状土壌。	KH4002 淹土
5 灰褐色	(5YR4/2)	粘土層、しまり中、粘性強。	KH4003S5X01 淹土
6 黒色	(7.5YR2/1)	粘土層、しまり中、粘性中。大潮スコリアを中量含む。VII層を基本とする。	KH4003 淹土
7 灰褐色	(7.5YR3/2)	粘土層、しまり中、粘性中。畦畔の壁土開始点付近に意識的に使用される土。	KH4003 淹土
8 灰オーライブ	(7.5Y4/2)	シルト層、しまり中、粘性中。	KH4003 淹土
9 黒灰褐色	(2.5Y4/2)	シルト層、しまりやや弱、粘性弱。炭化材ごく少含む。SD4001底面に意図的に教かれた土。	KH4001 淹土
10 黒褐色	(7.5YR2/1)	細砂層、しまりやや弱、粘性弱。植物遺存体中量、炭化材少量含む。	KH4001 淹土

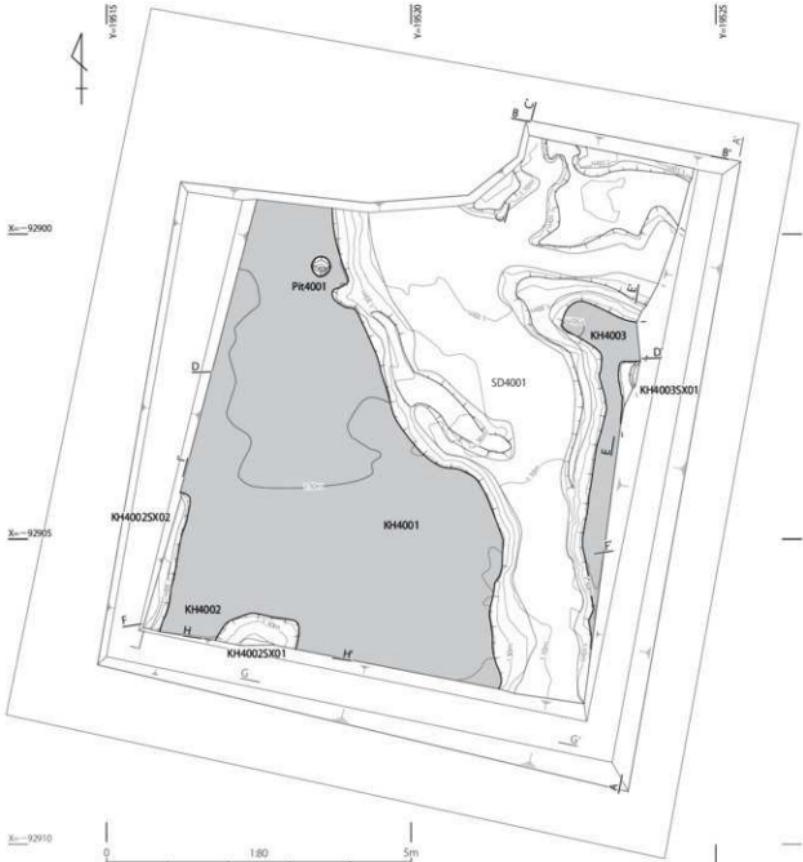
第20図 2工区セクション図

し、分岐点の幅は約2.40mを測る。検出された南北方向の長さは約1.60mで、南端の幅は約0.9mと急激に狭くなる。本畦畔の東側と西側にはⅦ層の土を削った落ち込み（KH4002SX01～02）があり、水田部分の可能性がある。畦畔の際から緩やかに落ちるようであるが、深さ30cmほどに至ることが確認できる。

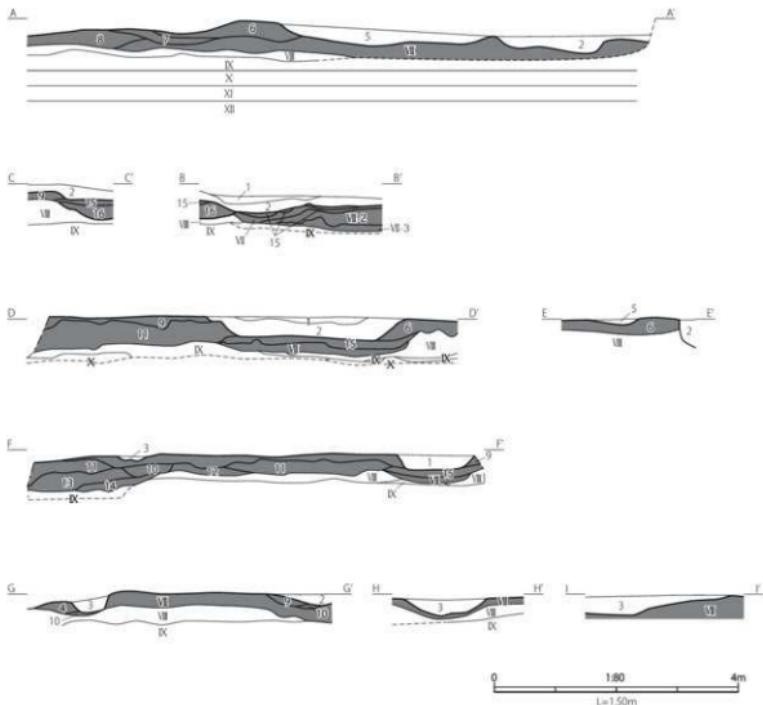
本畦畔もKH4001と同様、9世紀末から10世紀頃に築かれたものと考えられる。

KH4003

2工区の東で検出された畦畔とみられる遺構である。北から東と南へ分岐して延びる。北から東へ延びる部分は東西長約1.40m、南北幅約0.65mを測る。南へ延びる部分は、南北長約4.80mあるが、分岐点で東西幅約0.35mと他に比べて細い。本畦畔の東側には、Ⅶ層とⅧ層を基本とする盛土（6層）を削った落ち込み（KH4003SX01）があり、水田部分である可能性が考えられる。畦畔の際から段状に下がり、工区東壁土層では深さ35cmほどに至ること



第21図 2工区上層遺構全体平面図



- VII 黄色
 VII-2 黄褐色
 VII-3 黄褐色
 VIII 黑褐色
 IX 黑褐色
 X 黑褐色
 XI 黑褐色
 XII 黑褐色
 1 黑色
 2 黑褐色
 3 黑褐色
 4 黑色
 5 黑褐色
 6 黑色
 7 黑褐色
 8 黑オリーブ色
 9 黑褐色
 10 黑褐色
 11 黑褐色
 12 黑褐色
 13 黑色
 14 黑褐色
 15 暗灰黄色
 16 黑色
- (7.5YR2/1) 砂土層。しまりやや弱、粘性中。大洞スコリアを中量含む。
 (7.5YR3/1) 砂質土層。しまりやや弱、粘性弱。植物遺存体中量含む。
 (7.5YR2/2) 砂土層。しまりやや弱、粘性弱。植物遺存体中量、炭化材中量(下層に多い)含む。
 (7.5YR2/2) 砂土層。しまりやや弱、粘性弱。植物遺存体を含まない。
 (7.5YR2/2) 砂層。しまりなし、粘性なし。
 (10YR3/2) 砂+粘質土。しまりやや弱、粘性やや弱。植物遺存体を多量含む。
 (10YR2/1) しまりやや弱、粘性やや弱。炭化材少量。律の量含む。
 (10YR2/1) しまりやや弱、粘性やや弱。草木の根を多量含む。

遺物包含層
 遺生物遺存層(纏文も含む)

- SD4001 植土
 SD4001 植土
 KH4002SX01 植土
 KH4002 植土
 KH4003SX01 植土
 KH4003 植土
 KH4003 植土
 KH4001 植土
 SK4001 植土

第22図 2工区上層造構セクション図

が確認できる。本畦畔も他の畦畔と同様、9世紀末から10世紀頃に築かれたものと考えられる。

KH4001・KH4003出土遺物

畦畔盛土から出土した遺物のうち、16点を図示した(第23図)。29はKH4003から出土したもので、それ以外はKH4001からの出土である。

19・20は8世紀後葉から9世紀初頭の須恵器である。19は箱形の高台坏に縹い台形の耳がつぐ双耳坏である。20は須恵器有台箱坏の底部で、外面はヘラケズリ後、高台を貼り付けている。底部と体部の境は強く屈曲して立ち上がる。

21から34は土師器である。

21は駿東型球胴壺の口縁部で、口唇部は内側に肥厚し、端部をくぼませる。8世紀代である。

22は駿東型長胴壺である。頸部はくの字に屈曲し、肩はあまり張らず、胴部の内外面にハケメ調整が施される。9世紀に位置づけられる。

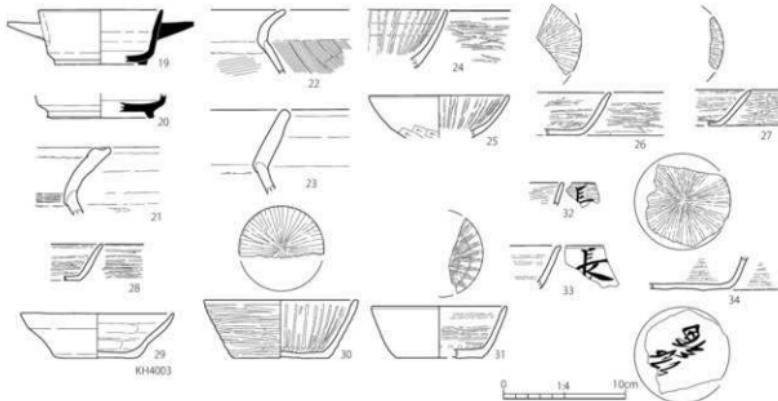
23は古墳時代後期の壺の口縁部である。器面荒れが激しく、調整は不明瞭であるが、口縁部は直線的で、端部に肥厚は認められない。

24、26から28、30から34は8世紀末～9世紀前半の駿東型坏である。32・33・34には墨書が認められる。

24は体部があまり開かずに立ち上がり、外面にヨコヘラミガキを、内面にタテヘラミガキを施している。26・27・28は、底部外面をヘラ切りし、体部内外面にヨコヘラミガキ、みこみ部に放射状暗文が施される。30は体部外面にヨコヘラミガキ、体部内面にタテヘラミガキ、みこみ部に放射状暗文が施される。底部外面はヘラケズリされ、中心に木口痕が残る。31は体部内面にヨコヘラミガキ、みこみ部に放射状暗文が施される。体部外面にはヘラミガキは認められない。底部外面はヘラ切りで、木口痕が残る。32は内外面にヨコヘラミガキが施され、外面に「長」の上部とみられる墨書が認められる。33は内面にヨコヘラミガキが施され、外面に「長」の墨書が認められる。34は体部外面にヨコヘラミガキ、みこみ部に放射状暗文が施される。底部外面はヘラ切りされ、中心に木口痕が残る。墨書は底部外面に「口福」の二字が認められる。

25は甲斐型坏で、体部内面にはタテヘラミガキが施され、外面には下部のヘラケズリは認められるが、ヘラミガキは施されない。9世紀に位置づけられる。

29はKH4003から出土した10世紀の坏である。体部が緩く外反して立ち上がった後、内湾して口縁部に至る坏で、内外面ともにナデ調整である。



第23図 KH4001・KH4003出土遺物実測図

SD4001

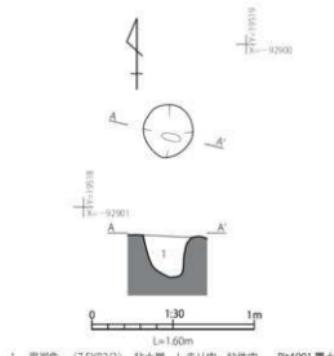
2工区の東半で検出された溝状遺構（水路）である。VII層の上に、粘土（15層）を敷いて底面とし、その両側にKH4001とKH4003の盛土をすることによって水路を築いた様子が土層から確認できる。覆土は外側にVI層に由来する粘土、内側に細砂が堆積する。

検出された南北方向の全長は約9.30mを測るが、KH4003に接する東上端が南端から約6.50mの所で東に折れる。その北側で底面が高まる部分が認められるが、水路が拡幅するのか、屈曲するのか、分岐するのかは検出範囲では判断できない。水路の幅は、東上端が折れる部分で上端が約3.20m、下端が約1.60mを測るが、南にいくにつれて細くなり、南端では上端が約1.60m、下端が約0.75mとなる。

本遺構の覆土からは弥生時代後期、古墳時代前期、7世紀から9世紀に位置づけられる遺物が少量出土し、なかでも9世紀のものが大半を占めたが、図示できるものはなかった。KH4001の造成と同時に築かれている水路であるため、本遺構の時期も9世紀末から10世紀頃と考えられる。

Pit4001

2工区の北西、KH4001盛土上で検出されたピットである。平面形は円形で直径32cm、断面形はU字形で検出面からの深さは26cmである。遺物は出土しなかったが、KH4001盛土を掘り込んでいることから、10世紀以降のピットと考えられる。



第24図 Pit4001

[2工区下層遺構]

SH4001

2工区の北西で、柱の礎板とみられる板状木製品（第27図35～38）が同レベルで出土したことで確認された掘立柱建物跡である。

礎板の配置は北東に1枚（37、SH4001Pit01）、南東に2枚（35・38、SH4001Pit02）、南西に1枚（36、SH4001Pit03）であり、北西は工区外に位置するため検出できなかった。礎板から推定される建物の規模は、柱間寸法2.50m四方の正方形で、主軸方位はN-4.3-Wである。

礎板検出まで柱穴の掘り込みは認識されなかったが、礎板が出土したのがIX層あるいはX層の上面であることから、元々はVII層より上層から柱穴が掘り込まれていたと考えられる。後述する土坑SK4001がVII層から掘り込まれており、本建物跡の柱穴も同様に9世紀中葉から後葉の遺構と推定される。

SH4001 出土遺物

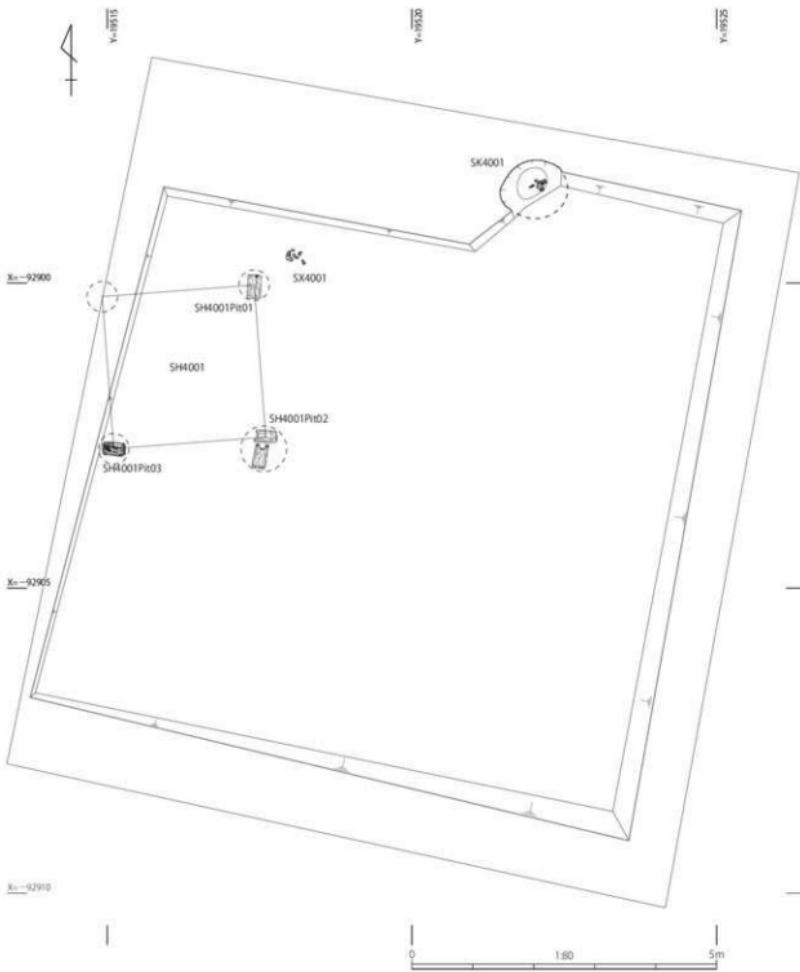
SH4001の柱の礎板4枚を図示した（第27図35～38）。

35は建物跡の南東の柱穴Pit02に用いられた礎板である。長さ40.2cm、幅20.8cm、厚さ5.7cmを測る。36は西南のPit03に位置し、長さ38.7cm、幅21.2cm、厚さ6.0cmである。37は北西のPit01の礎板で、長さ39.9cm、幅20.9cm、厚さ5.3cm。38は35と同じPit02に位置し、長さ38.1cm、幅20.7cm、厚さは3.5cmである。38は全体的に腐食し痩せている。

これらの礎板は、1枚の台輪を4分割して礎板に転用したものと確認された（第28図）。

台輪は、掘立柱建物で床板を受ける部材である。側柱の床高より上の部分をやや細くつくり出し、上から梁行方向に台輪をかけ渡し、その上に床板を組む。側柱に架けるための方形の孔の痕跡が、35と38の短辺に残っている。

35と38を両端として35・36・37・38の順につながり、復元される台輪は全長149cm、幅21.4cmとなる。柱に架けるための孔は幅9.2～9.4cmで、正方形の孔と仮定した場合、柱間寸法は146.5cmと推定される。



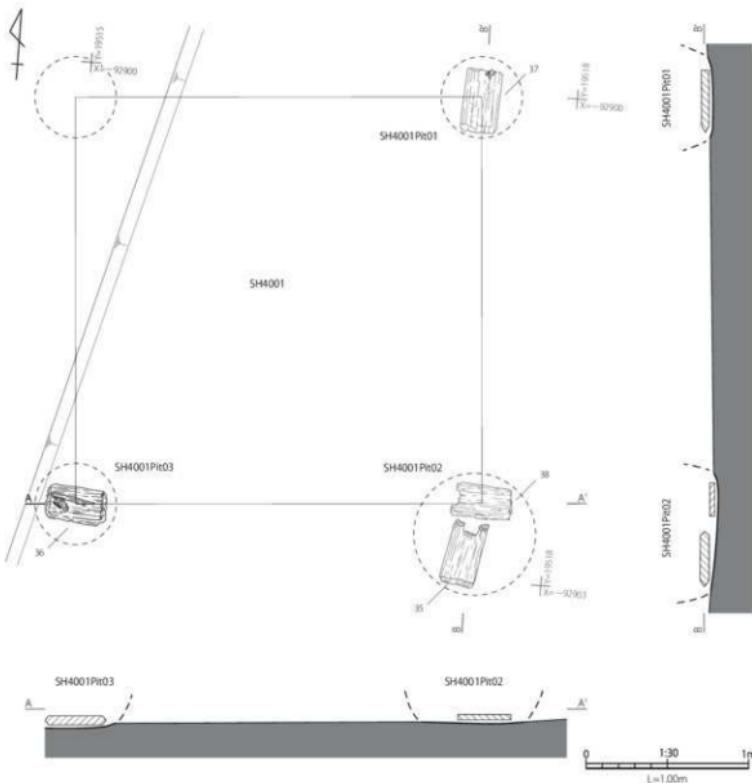
第25図 2工区下層道構全体平面図

推定直径 75 ~ 80cm の木を、表皮をつけたまま板状に割り、表面や側面に必要な加工を行っている。端から 9cm ほどの幅で手斧によって平らに表面加工された面が上面となり、加工部分に床板を受けたとみられる。下面是、屋外に向く側面の端から 3cm ほどの幅に表皮を残しておらず、そこに表皮を残す何らかの理由があるものと考えられる。表面加工に用いた手斧の幅は 4.2cm であるが、礎板にするために 4 分割する際には 4.4cm 幅の手斧を使って V 字状に切断している。

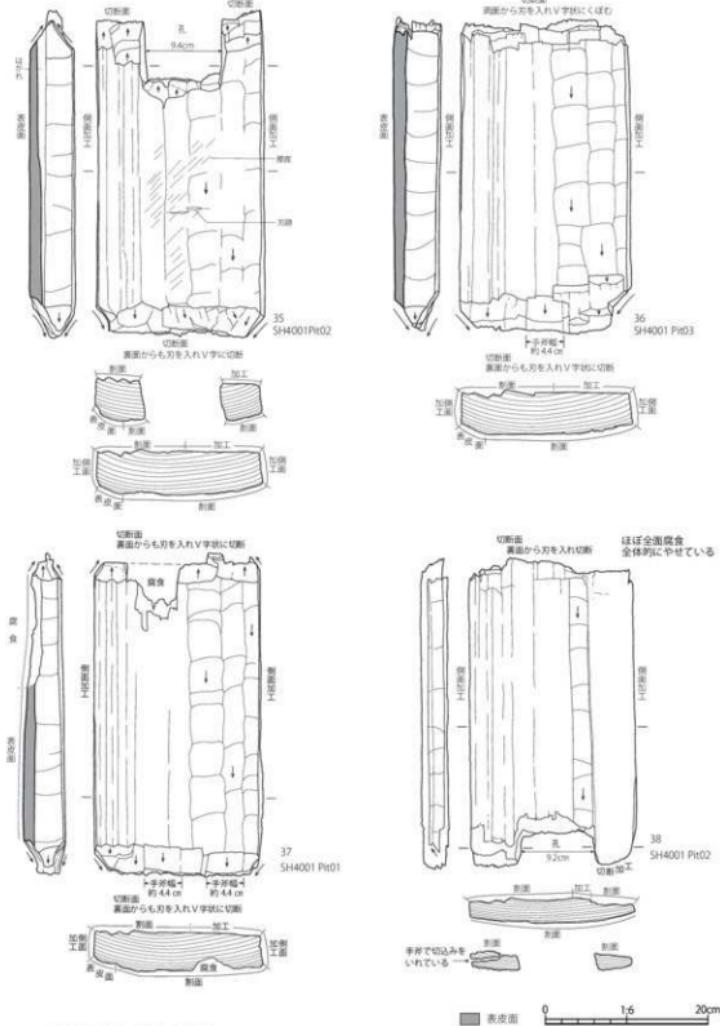
検出時、35 は台輪としての上面が上を向いていたが、36 ~ 38 は裏返った状態で設置されていた。

SK4001

2 工区の北壁際東寄りで検出された土坑である。東南部分は工区掘削の際に削られているが、工区壁面から完形堆（39）等の遺物が集中して出土したことにより、断面を精査し、VII 層から掘り込まれた土坑であることを確認した。平面形は長径 106cm の円形あるいは梢円形を呈すると推定される。断面形は緩やかな逆台形で、深さ 30cm を測る。覆土は黒色細砂が堆積する。土坑内からは土器壺（39・40）や、被熟した土器壺（41～43）が出土し、壺 39 には「南寺」などの墨書きが認められる。出土遺物から 9 世紀後半の土坑と考えられる。



第 26 図 SK4001



第27図 SH4001出土遺物実測図

SK4001 出土遺物

土師器 5 点を図示した（第 29 図）。本遺構の出土遺物はおおむね 9 世紀中葉から後葉に位置づけられる。

39 は墨書が認められる駿東型壺である。体部内面のみにヨコヘラミガキが施され、口縁端部は外側につまみ出される。底部外面は全面がヘラケズリされる。墨書は体部外面に 2 箇所認められる。壺に対して横位に「南寺」の二文字が記され、「南寺」と 90 度の位置に正位で判読不明の一文字が記される。この文字は「南」のことと思われる。

40 も駿東型壺である。ヘラミガキは体部内面の下部のみに施され、底部外面は全面をヘラケズリする。口径に対して底径が小さい。

41・42 は小型甕である。口縁部は短く、口唇部を内側にわずかに肥厚させる。頸部は緩く屈曲し、肩は張らない。41 は胴部最大径を胴部のやや上部にもち、口径よりも小さい。底部外面には木葉痕が残る。胴部内面はヨコナデ、外面には指頭痕が残り、全体にススが付着している。

42 の胴部最大径は口径とほぼ同じである。胴部内面はヨコナデ、外面には細かいナナメハケメが施される。外面の下部にはススが付着している。

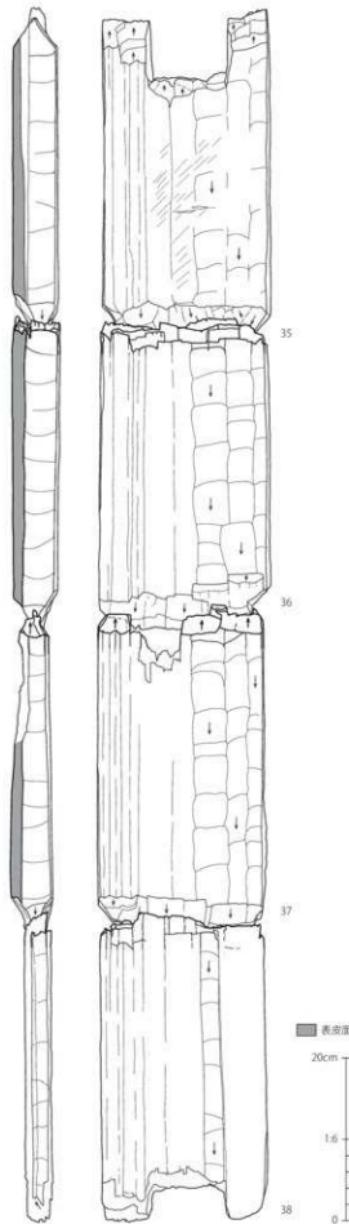
43 はハケメ調整される土師器甕の底部である。内面の底部と体部の境をヨコヘラナデしている。底部外面には木葉痕が残り、ススが付着している。

SX4001

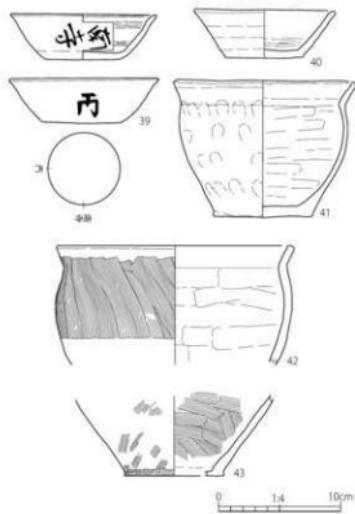
2 工区北壁際西寄りで検出された遺物集中地点である。KH4001 盛上の掘削時、盛土直下のⅧ層上面で多量の土器と炭化材が集中して出土した。土器の出土範囲は南北 100cm、東西 35cm ほどを測るが、掘り込みなどは確認されなかつた。出土した土器には「寺」「福」「長」等の墨書や刻書が記されるものもある。出土遺物には 8 世紀代のものもみられるが、9 世紀前半から中葉のまとまりと思われる。

SX4001 出土遺物

須恵器 2 点、土師器 17 点、中世陶器 1 点を図示した（第 32 図）。時期幅があるが、おおむね 9 世紀代に位置づけられる。



第 28 図 台輪の復元



第29図 SK4001出土遺物実測図

44は須恵器の摘み蓋である。天井部は回転ケリされ、中央がわずかに盛り上がる円盤状の摘みが貼り付けられる。8世紀代のものである。

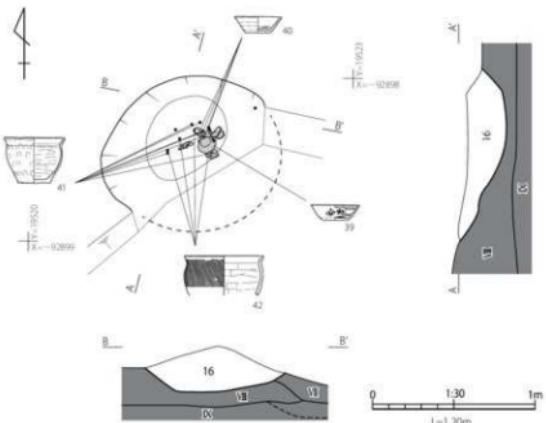
45は須恵器の有台箱坏である。坏部は箱形を呈して、体部が垂直に近く立ち上がる。高台は断面長方形で、坏部の底部よりも小さい。

46は土師器摘蓋の宝珠形の摘みである。47も土師器の摘蓋である。天井部は上部外面をヘラケズリした後、内外面ともヨコヘラミガキと放射状ヘラミガキが施される。摘みの中心の突出が大きい。

48は土師器の小型甕である。口縁部は短く、口唇部をわずかに内側に肥厚させる。頸部はくの字に屈曲し、肩は張らない。胴部最大径は口径とほぼ同じである。胴部外面は細かいナナメハケメ調整が施され、内面は頸部にヨコハケメが残るが、胴部はヨコナデである。49はハケメ調整の土師器小型甕である。

50と51は土師器甕の底部である。胴部の外面はハケメ調整され、底部外面には木葉痕が残る。

52は中世の陶器の甕とみられる。



53、54、56 から 61、63 は土師器の駿東型坏である。器形から 9 世紀前半に位置づけられるものと、9 世纪中葉に位置づけられるものとがある。

53 は体部と底部に墨書が認められる。口縁部の下部がわずかにくぼめられ、やや玉縁のようになる。体部外面はヨコヘラミガキ、体部内面はヨコヘラミガキとタテヘラミガキ、みこみ部には放射状暗文が施される。底部外面は全面へラケズリされ、中心に丸印の墨書が認められる。体部には正位で「寺」と記される。

54 は底部外面がヘラケズリされ、体部は内外面ともにヨコヘラミガキが施される。体部外面に墨書とみられる線が 2 本認められるが、判読不能である。

56 と 57 のみこみ部には放射状暗文が施され、56 は底部外面全面がヘラケズリされ、丸印の墨書が認められる。57 の底部は薄く、ヘラ切り後、中心に残った木口痕部分に「福」の墨書が認められる。

58 もみこみ部には放射状暗文が施され、底部外面はヘラ切りされる。

59 は体部の内外面にヨコヘラミガキが施される。底部外面はヘラ切りされ、中心に木口痕が残る。

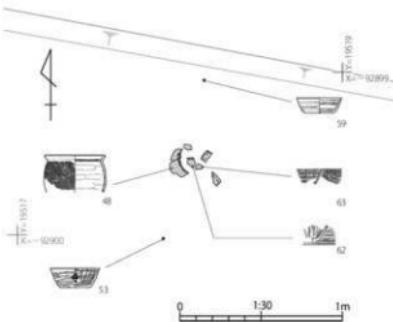
60 は体部内外面にヨコヘラミガキ、みこみ部に放射状暗文が施され、底部外面はヘラケズリされる。

61 は体部内面にヨコヘラミガキが施され、外面に「長」の刻書が認められる。

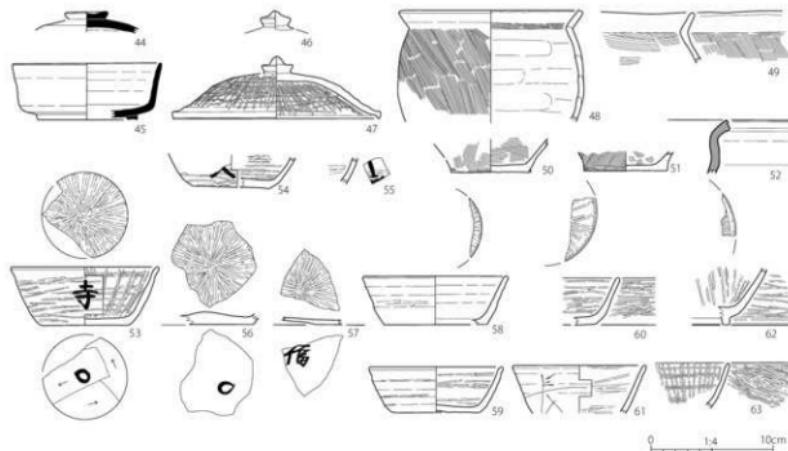
63 は、体部内面にヨコヘラミガキの後タテヘラミガキ、外面には密なナナメヘラミガキが施される。

55 は判読不能な墨書が認められる土師器坏の体部片である。

62 は須恵器を模倣した土師器の有台坏である。体部外面にヨコヘラミガキ、体部内面にタテヘラミガキ、みこみ部に放射状暗文が施される。高台は断面方形で貼り付け高台である。



第 31 図 SX4001



第 32 図 SX4001 出土遺物実測図

VI・VII層出土遺物

第33図には、2工区のVI・VII層から出土した遺物を図示した。木製品87がVI層からの出土で、その他はすべてVII層中の出土である。

64は灰釉陶器の碗である。内外面に灰白色から灰オリーブ色の施釉が認められる。口縁端部はわずかに外につまみ出す。10世紀のものである。

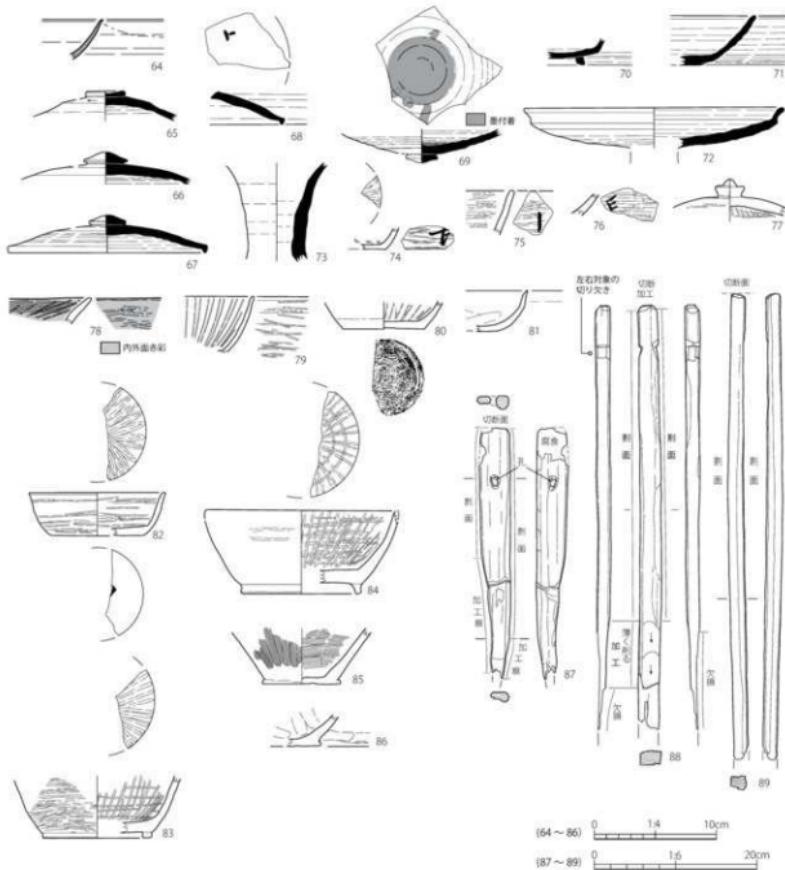
65から69は須恵器坏蓋である。65は8世紀代、ほかは9世紀代に位置づけられる。

65は円盤状の摘みを貼りつける。摘みは扁平で、中心がわずかに盛り上がる。

66・67には平たい宝珠状の摘みがつく。外面には自然釉が付着している。

68は、端部の折り返しが小さく、天井部外面に判読不明な墨書が認められる。

69は転用鏡である。平たい宝珠状の摘みがつく蓋の内面に墨の痕跡が残る。



第33図 2工区VI・VII層出土遺物実測図

70は須恵器有台箱杯の底部である。体部と底部の境は明瞭に屈曲し、ヘラケズリした底部に高台を貼りつける。9世紀代に位置づけられる。

71から73は8世紀代に位置づけられる。

71の須恵器碗形坏身は全体をナデで仕上げている。72は須恵器高盤の盤部である。体部外面はヘラケズリされ、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は外反して端部は丸い。脚部は盤部に対して細いものがついていたようである。

73は須恵器壺の頸部である。体部との接合部付近の内面にしづり痕が認められ、外面には自然軸が付着する。

74・75・76は墨書がみとめられる土師器駿東型坏で、いずれも9世紀代に位置づけられる。

74はみこみ部に放射状暗文、体部外面にヨコヘラミガキが施される。体部外面に正位で「長」の下部とみられる墨書が認められる。75は体部の内外面ともヨコヘラミガキが施され、外面に判読不能な墨書がみとめられる。76は体部内面にタテヘラミガキ、外面にヨコヘラミガキが施され、外面に「長」の上部とみられる墨書が認められる。

77は土師器の摘み蓋である。天井部内面には放射状ヘラミガキが施される。外面は下部をヨコヘラミガキ、上部を回転ケズリ後、宝珠状の摘みを貼りつける。9世紀代に位置づけられる。

78は内外面に赤彩が施された土師器の口縁部片である。器種・時期は不明だが、内面にはヨコハケメ後ナナメヘラミガキ、外面にはヨコヘラミガキが施される。

79は土師器甲斐型坏である。体部内面には細いタテヘラミガキが施され、外面にはヨコヘラミガキが施されるが、外面下半のヘラケズリは認められない。9世紀代に位置づけられる。

80は土師器駿東型坏である。体部内面にはタテヘラミガキが施され、底部外面は外周をヘラ切りして、中央に木口痕を残す。9世紀代に位置づけられる。

81は底部に木葉痕が残る土師器坏である。体部は丸く、体部と口縁部の境にナデによるゆるい稜をもち、口縁部は短くやや外反する。7世紀代に位置づけられる。

82は墨書がある土師器駿東型坏である。体部の内外面にヨコヘラミガキ、みこみ部に放射状暗文が施される。底部はヘラ切りして中央に木口痕を残し、そこに判読不能の墨書が認められる。9世紀代に位置づけられる。

83・84は須恵器を模倣した土師器の有台坏である。体部外面にはヨコヘラミガキ、内面にヨコヘラミガキとタテヘラミガキ、みこみ部に放射状暗文が施される。底部外面は回転ケズリ後、高台を貼りつける。8世紀末頃に位置づけられる。

85は土師器の壺である。胴部内面はヨコハケメ、胴部外面はタテハケメが施され、底部には木葉痕が残る。

86は弥生土器の壺の底部である。胴部の内外面はナデ調整され、底部には木葉痕が残る。

87・88・89は木製品である。いずれも棒状に加工されたものであるが、用途は不明である。87には孔が穿たれ、88は上部に左右対称の切り欠きが認められる。

X・XI層出土遺物

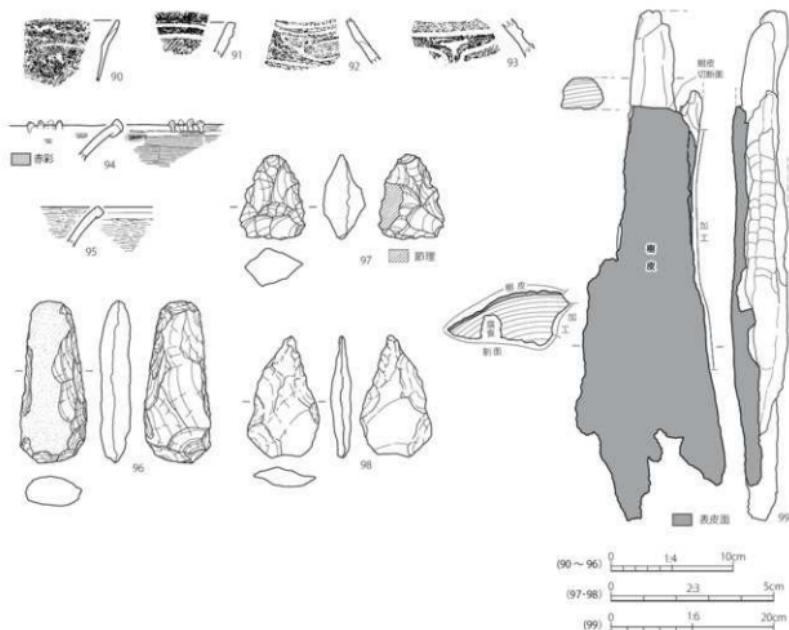
VII層とVIII層を除去し、IX層上面を調査停止面としたが、調査区東壁際に掘った側溝の底面から10cmほどの深さで弥生土器が採取されたため、重機による部分的な深掘りを行った。

その結果、縄文土器および弥生土器包含層（X I層）とその下の溶岩を多く含む層（X II層）を確認し、XI層から弥生土器、石器を採取した。

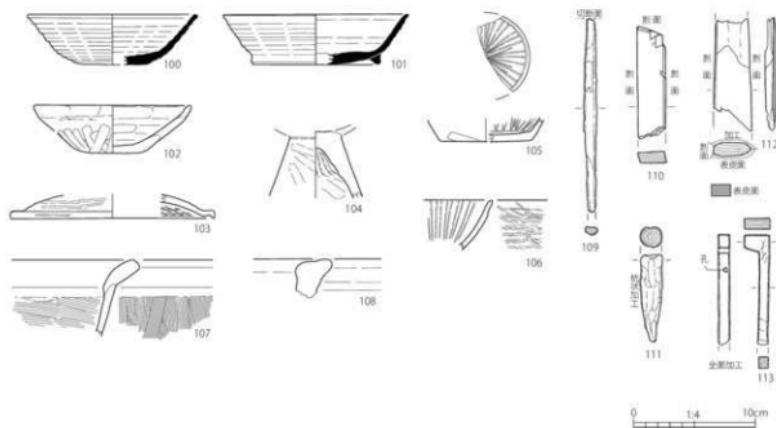
X I層から出土した土器・石器9点（90～98）と、X II層から出土した木製品1点（99）を図示する（第34図）。

90から93は縄文時代晚期の土器である。90は粗製土器の鉢である。胎土に雲母を含み、器壁は薄い。91は口縁部片で、2条の沈線が巡り、その下に縄文が施文される。92・93は胴部片で、縄文施文後、沈線で区画し、区画外を磨り消している。92には部分的に朱の痕跡が残る。

94・95は弥生土器の壺の口縁部である。94は口縁部を外側に折り返し、端部を面取りした後、棒状貼付文がつく。口縁部外面にはヨコハケメが施され、折り返し部分の間に赤彩の痕跡がわずかに残る。



第34図 2工区X I層出土遺物実測図



第35図 2工区出土層位不明遺物実測図

95は口縁部を外側に肥厚させ、端部を面取りする。内外面にヨコヘラミガキが施される。

96は打製石斧、97・98は黒曜石製石織の未製品である。

99は柱材と考えられる木製品である。樹皮がついたままの不定形な木材に、部分的に加工の痕跡が認められる。

出土層位不明遺物

2工区から出土したもので出土層位が不明なものから、14点を図示した（第35図）。

100は須恵器の碗形坏身である。全体がナデで仕上げられ、口縁端部をわずかに外につまみ出す。8世紀代に位置づけられる。

101は須恵器の高台坏である。底部はほぼ接地するほど張り出す。8世紀代に位置づけられる。

102はナデ調整の土師器坏である。底部から体部外面はタテヘラナデ、口縁部から体部内面はヨコナデで仕上げられる。口縁端部はやや内湾する。10世紀代のものである。

103は土師器の蓋である。内面は放射状ヘラミガキ、外表面はヨコヘラミガキを施す。端部は外反させた後、小さく折り返す。9世紀代に位置づけられる。

104は古墳時代中期の土師器高坏の脚部である。脚部の頂部が坏部のみこみ部になる。脚部外面はナデ調整され、内面上部にはしぶり痕が残る。

105・106は土師器の甲斐型坏である。いずれも9世紀代に位置づけられる。

105の体部内面はタテヘラミガキ、みこみ部は放射状ヘラミガキ、体部とみこみ部の境にはヨコヘラミガキが施される。体部外面下半はヘラケズリされ、底部外面はヘラナデでなめらかに整えられる。

106は体部内面にタテヘラミガキ、外面にヨコヘラミガキ、ナナメヘラミガキが施され、ヘラケズリは認められない。

107・108は9世紀代の土師器の壠である。

107の胴部内面はヨコハケメ、外面はタテハケメで調整され、口縁部は外へ開く。108の口縁部は内面を肥厚させ、厚くつくっている。

109から113はいずれも用途不明の木製品である。

109は棒状の木製品である。110は板状の木製品で、端部を斜めに切断し、段に切り込んだような痕跡がみられる。111は先端をとがらせた杭状のものだが、加工ではなく自然木の可能性もある。112は表皮面を残し、面取りして、断面がいびつな六角形になっている。113は全面に直線的な加工がされている。

第4章 総括

遺跡の立地

沖田遺跡は北には富士山と愛鷹山、南方には富士川河口から沼津市狩野川までつづく田子の浦砂丘に面している。駿河湾から内湾である浮島ヶ原低地に入れる玄関口であるかつての吉原漁の北側低地部に展開する遺跡である。この浮島ヶ原低地には富士山や愛鷹山の河川が注ぎ込むため、大雨や高潮があると湖沼となる土地であり、沖田遺跡の範囲内にも西から和田川、松原川、瀧川が流れ込んでいる。155次調査地点は遺跡の中でも北側の微高地に立地しており、奈良・平安時代の駿河国富士郡家である東平遺跡から東側にのびる街道（根方街道）に面した場所に位置する。加えて調査地点の北側約200mには、新富士火山の溶岩の末端が露頭しており、新富士火山溶岩と地下水リザーバーである古富士泥流付近には多数の湧水地点が展開している（小川 1986）。

縄文時代

縄文時代の遺物は地表下約3.6m、標高0.4m付近の黒色土（XⅠ層）から出土している。

縄文時代晩期を中心とする遺物が比較的まとまって出土し、水場遺構の存在も想定されたが多量の湧水の影響から十分な遺構精査が行えていない。

これまで、沖田遺跡の周辺では丘陵上の宇東川遺跡や中島遺跡など中期後半から後期にかけての集落展開が確認されていたものの、晩期の状況はあまり明確になっていなかった。数少ない類例としては、本調査地点の北側の丘陵上に展開する赫夜姫遺跡において晩期の注口土器が採集されている（富士市教委 1986）ほか、浮島ヶ原低地を挟んだ三新田遺跡でも破片ながら晩期の土器が認められている。現在、縄文時代晩期の安行3式は、3245-2750cal BP（1295-800cal BC）頃と考えられており（小林 2019）、今回見つかった縄文時代晩期の土器の在り方は、「縄文海退」による離水により、人々の生活域が低地部に移動していったことを示している可能性がある。

なお、遺物包含層であるXⅠ層の下位には、富士山の溶岩疊の堆積が認められる。

弥生時代

弥生時代の遺物は縄文時代の遺物包含層と同じ黒色土（XⅠ層）から出土している。前述のとおり、湧水の関係から十分な土層検討が行えていないが、弥生時代後期の遺物が比較的まとまって出土した。沖田遺跡ではこれまでに弥生時代中期後半の遺物も知られているが、浮島ヶ原低地部を取り囲む微高地に本格的に生活域が認められるようになるのは後期からであり、今回の調査でも弥生時代中期にさかのぼる土器片は認められない。

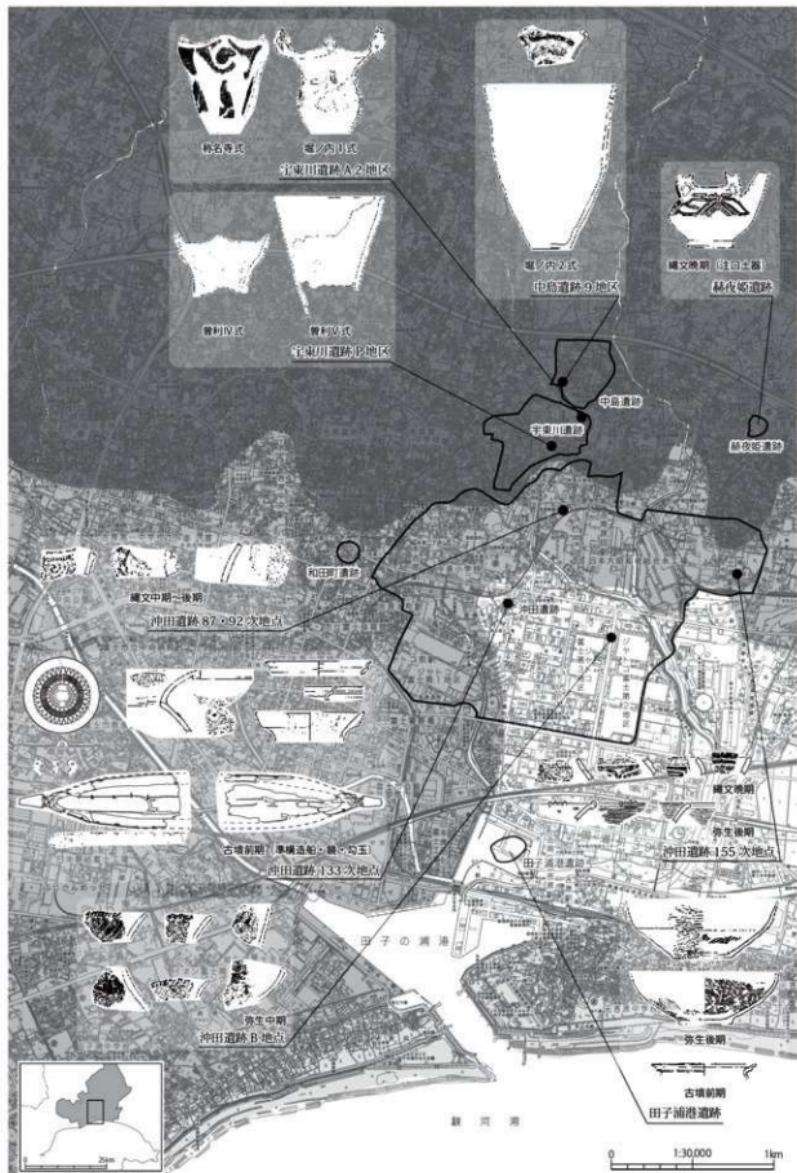
古墳時代

出土土器全体のうち、古墳時代前期、中期、後期の土器が占める割合はそれぞれ、0.1パーセント、0.2パーセント、2.5パーセントと古墳時代の遺物は総じて少なく、遺構も認められない。

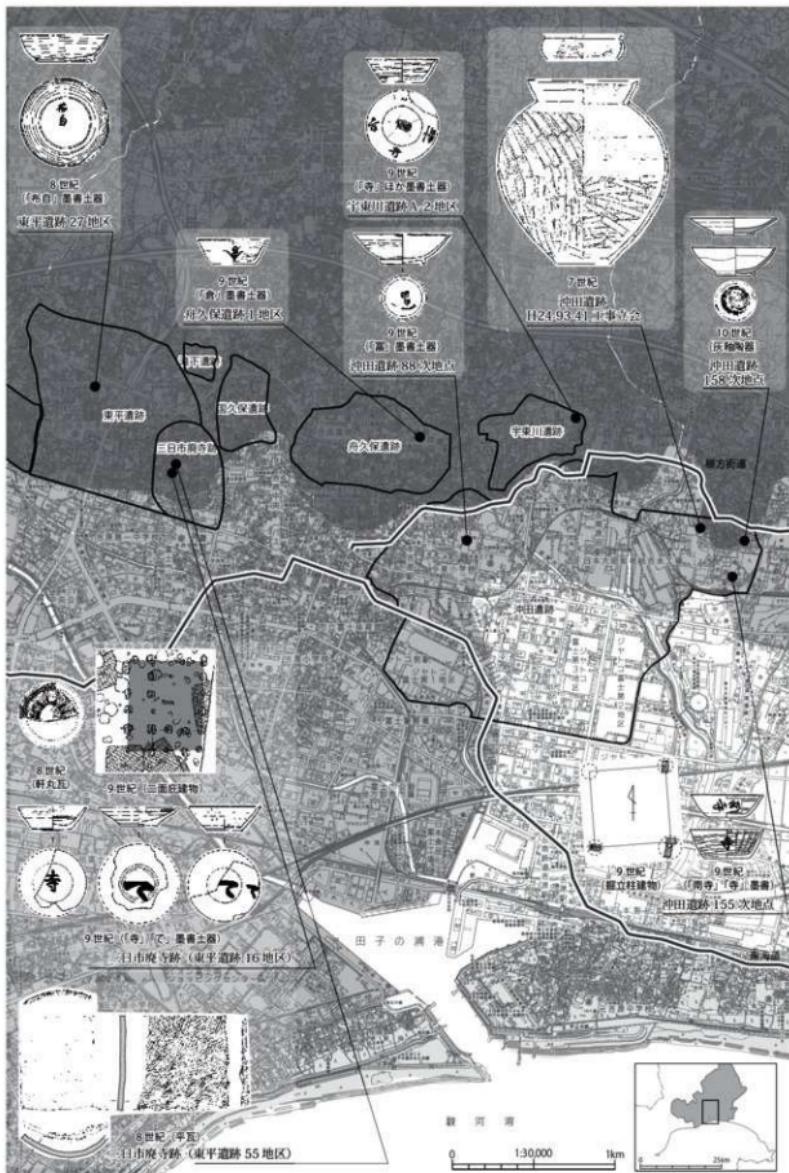
沖田遺跡では古墳時代前期後葉から末葉における準構造船（木棺転用・低墳丘墓か）が発見され（富士市教委 2013）、浮島ヶ原低地のラグーンを取り囲むエリアには政治的・社会的ネットワークが構築されていると想定されている（佐藤 2018）。しかし、今回の調査地点には明確な生活痕跡が認められず、沖田遺跡と集落構造論的に密接な関係を有する丘陵上の宇東川遺跡や祢宜ノ前遺跡が古墳時代の中心的な生活域として選択された背景には、準構造船を使用する環境からも推定されるように浮島ヶ原低地における水位上昇の影響も考えられよう。

古代

古墳時代後期に遺物量の増加がみられ、その増加傾向は7世紀から9世紀にも継続し、9世紀には遺物全体量の半数以上を占め、特に中葉から後半に遺物が集中する傾向が認められ、10世紀には激減する。一方、駿河国富士郡家と想定されている東平遺跡における遺構数・遺物量の時期ごとの変化をみると、明らかに8世紀後半に最盛期を迎えるが、9世紀後半には減少しており（佐藤 2016・2018b）、その消長は対照的な様相といえよう。これは、藤村も指摘



第36図 縄文時代から古墳時代前期における沖田遺跡の周辺



第37図 飛鳥時代から平安時代における冲田道路の周辺

第2表 時期別の土器点数

調査	弥生 後期	古墳 前期	古墳中期		古墳後期		7世紀		8世紀		9世紀		10世紀		
			土師器	須恵器	土師器	須恵器	土師器	須恵器	土師器	須恵器	土師器	須恵器	土師器	灰釉陶器	
113	159	4	3	2	92	9	279	67	820	169	2131	85	3	0	1
2.9%	4.0%	0.1%	0.1%	0.1%	2.3%	0.2%	7.1%	1.7%	20.8%	4.3%	54.1%	2.2%	0.1%	0.0%	0.0%

するように郡家の求心力低下により富士郡家での集住計画から分散的な地域社会になったことにその一端があるといえよう（藤村 2014・2017）。

本調査地点では、9世紀中葉から後葉に掘立柱建物跡（SH4001）や土坑（SK4001）、土器集中（SX4001）が認められており、この地点が生活域であったことを明確に示している。また土坑や土器集中から「南寺」「寺」と墨書きされた墨書き土器や遺物包含層からは転用窯（第33図69）が見つかったことは居住域としての性格に加えて、寺域としての利用があつたことを示している。今回検出されたSK4001からは「南寺」と墨書きされた坏が、伏せられた状態で出土しており、意図的に土器を埋めた土器埋納遺構と位置づけられよう。

さて、9世紀に入ると富士山の噴火が頻発に起こり、延暦19年（800）、貞觀6年（864）、承平7年（937）の噴火などが知られている。火山の噴火は神の怒りによる「神意活動」であり、朝廷と地方（国・郡）は重要な祭祀を取り仕切ることに責任をもつという考え方がある（笛生 2012）。そのため、9世紀後半におきた「貞觀の大噴火」（864）では、朝廷は国家的祭祀として甲斐國・駿河国に命じて富士山の噴火（怒り）を抑える祭祀を行わせている。

これまで富士郡域における古代寺院は富士郡家に隣接して存在した三日市廃寺跡（定額寺 法照寺と想定）のみが知られており、「寺」の墨書き土器も富士郡家内で数点出土している（佐藤 2018c）。

三日市廃寺跡（法照寺）と今回の調査地点は、ともに富士山の溶岩の末端であることや、そこから湧水が認められることなどの共通点が見られ、まさしく富士山の噴火に対して祭祀を執り行った場所としてふさわしい。おそらく、規模は明らかではないが9世紀中葉に、この地にも寺院が存在し祭祀を執り行う特別な役割を担っていたと推定されよう。

加えて、遺跡の北側には富士郡家とをつなぐ根方街道が通っており、人やモノ、情報の頻繁な往来が

想定されることからも、富士郡家と強い結びつきがあったと考えられる。

さらに今回の調査において少量ながら鉄滓が出土していることから手工業生産を担う集落としての性格も想定され、その役割からも富士郡家との結びつきが非常に強い遺跡として評価されよう。

出土遺物の傾向から、9世紀末ごろから10世紀には生活域としての利用を放棄して、灌漑などを目的とした大溝造成工事を施工していることが判明した。溝中から9世紀の遺物91点（517g）と少量しか出土しなかつたことなどからも、生活域として機能していなかつたことがうかがえる。なお、溝に接して畦畔のような遺構も検出されたが、部分的な検出のため、水田経営の痕跡とは明確には言えないが、大規模な灌漑施設である溝の存在は、周辺での水田経営の存在を目的としたものと評価されよう。本調査地点から北側200m（沖田遺跡第158次調査地点・富士市教委 2019）では、10世紀から11世紀にかけての灰釉陶器がまとまって見つかっていることからも人々の生活域が10世紀に入り北側に移動したと言える。

環境変化への対応

産業技術総合研究所などを中心としたボーリング採取と¹⁴C年代測定、火山灰分析により、浮島ヶ原低地部では西暦500年から1500年間に水位の急上昇が5回みられ、その時期は、6世紀～7世紀、7世紀後半、8～9世紀前半、10～12世紀、14世紀であるという（Fujiwara et al. 2016・藤原ほか 2019）。生活域として使用されていた9世紀中葉から後葉は水位が比較的低く、10世紀に入り地下水位が上昇したために、排水を目的とした大溝構築や生活域としての放棄・移動が行われたと推測できる。

今回の沖田遺跡第155次調査地点の調査では、水位の上昇と地盤沈降という浮島ヶ原低地で起こる環境の変化に対して、人々が様々に対応し生活していたことが確認されたといえる。

参考文献

- 小川賢之輔 1986「富士市域の地質及び地形」『富士市の自然』
富士市域自然調査報告書 富士市
- 小林謙一 2019『縄文時代の実年代調査』同成社
- 養生 繁 2012『富士山の古代祭祀とその背景—火山活動・災害と古代の神觀・祭祀』『山梨県山岳信仰遺跡詳細分布調査報告書』山梨県教育委員会
- 佐藤 祐樹 2016「伝法古墳群の展開と地域社会の成立」『伝法 中原古墳群』富士市教育委員会
- 佐藤 祐樹 2018a『駿河・遠江における古墳出現期の様相－浮島ヶ原における首長系譜を中心にして－』『東海地方における古墳出現期の様相2』第30回考古学研究会東海例会
- 佐藤 祐樹 2018b『東平遺跡第41地区出土土器の全容と特徴』『東平遺跡 第41地区』
- 佐藤 祐樹 2018c『駿河・伊豆における古代の墨書き土器と手工業』『静岡県と周辺地域の官衙出土文字資料と手工業生產』地域と考古学の会
- 富士市教育委員会 1986『富士市の埋蔵文化財（遺跡編）』
富士市教育委員会 2013『富士市内遺跡発掘調査報告書 一
平成22・23年度』
富士市教育委員会 2019『富士市内遺跡発掘調査報告書 一
平成30年度』
藤村 翔 2014『富士郡家間連遺跡群の成立と展開～富士市東
平遺跡とその周辺』『静岡県考古学研究』No.45
- 藤村 翔 2017『浮島沼西岸・沖田遺跡の調査からみた湖沼利用の推移』『館報』第32号 富士山かぐや姫ミュージアム
- 藤原 治ほか 2019『浮島ヶ原の沈降が示唆する富士川河口断
層帯の活動』『富士山5,000mの科学－駿河湾北部の地質と
自然を探る－』国立研究開発法人 産業技術総合研究所
- Fujiwara, O., Fujino,S.,Komatsubara, J., Morita, Y. and Namegaya, Y. (2016) Paleo ecological evidence for coastal subsidence during five great earthquakes in the past 1500 years along the northern onshore continuation of the Nankai subduction zone. *Quaternary International*, 397

付 表

出土遺物観察表
出土土器分類表

※ 遺構・遺物とともに、法量の（ ）は残存値、〔 〕は推定値である。
※ 残存率は図示中の残存率を示した。

出土遺物観察表

土器

工芸	出土遺物 トレンチ	移設 番号	断面 番号	断面 番号	R番号	出土 削面	種類 分類	時代	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重量 (g)	焼成 率	焼成 率	内面色調 外面色調	備考		
表記	春日神社	第 10 回	2	PL.9	—	—	須恵器 壺蓋	—	—	(4.7)	—	62.48	良好	5741 (灰)	5731 (ナリーブ黒)			
確認	5Tr	第 5 回	1	PL.9	R0004	II	須恵器 壺蓋	Rc	[14.2]	—	(2.3)	24.44	良好 25%	2.5Y6/1 (黄灰) 2.5Y6/1 (黄灰)				
確認	5Tr	第 5 回	2	PL.9	R0004	II	土師器 壺	9c	—	—	(4.5)	19.26	良好	—	5YR5/4 (にぶい赤褐色) 5YR5/4 (にぶい赤褐色)	甲斐型?		
I	第 18 回	1	PL.10	R0017	II	調文土器 鉢	調文晚期	—	—	(3.0)	13.64	良好	—	2.5Y2/1 (黒) 10YR6/2 (黄褐色)				
I	第 18 回	2	PL.10	R0006	II	弥生土器 壺	弥生後期	—	—	(4.0)	23.63	良好 30%	7.5YR7/2 (明褐色) 7.5YR7/4 (にぶい橙)					
I	第 18 回	3	PL.10	R0015	II	弥生土器 壺	弥生後期	—	7.7	(3.0)	152.24	良好 70%	7.5YR6/1 (褐色) 10YR7/2 (にぶい黄褐色)					
I	第 18 回	4	PL.10	R0015	II	土師器 壺	古墳後期	—	[15.2]	(8.3)	133.69	良好 60%	7.5YR5/3 (にぶい赤褐色) 7.5YR5/4 (にぶい赤褐色)					
I	第 18 回	5		R0010	II	土師器 壺?	古墳後期	—	—	(2.0)	5.72	良好	—	SYR6/6 (褐) SYR6/6 (褐)				
I	第 18 回	6		R0021	II	土師器 壺?	不明	—	—	(2.8)	8.61	良好	—	2.5YR5/4 (にぶい赤褐色) 2.5YR5/4 (にぶい赤褐色)				
I	第 18 回	7		R0009	II	土師器 壺?	9c	—	—	(1.1)	6.89	良好	—	SYR6/4 (にぶい橙) SYR6/4 (にぶい赤褐色)	甲斐型?			
I	第 18 回	8		R0009	II	土師器 壺	9c	—	—	(1.0)	6.31	良好	—	SYR6/4 (にぶい橙) SYR6/4 (にぶい橙)	甲斐型			
I	第 18 回	9	PL.10	R0017	II	土師器 壺	7c	—	—	(5.4)	58.77	良好	—	5YR5/4 (にぶい赤褐色) 2.5YR5/5 (明赤褐色)				
I	第 18 回	10	PL.10	R0006	II	須恵器 壺	7c	[10.0]	—	(3.5)	42.96	良好 50%	2.5Y6/1 (黄灰) 2.5Y6/1 (黄灰)					
I	第 18 回	11		R0010	II	須恵器 壺?	8c	—	—	(2.5)	20.24	良好	—	10YR5/2 (黄褐色) 10YR4/1 (褐色)				
I	第 18 回	12	PL.10	R0014	II	須恵器 壺?	8c	—	[10.7]	(1.0)	43.76	良好 30%	10YR5/1 (褐色) 10YR4/1 (褐色)					
I	第 18 回	13		R0009	II	須恵器 壺?	8c	—	[10.7]	(1.4)	19.74	良好 20%	2.5Y6/1 (黄灰) 10YR7/1 (灰白)					
I	第 18 回	14		R0010	II	須恵器 長颈瓶	8c	—	—	(2.1)	35.15	良好	—	SYR4/1 (褐色) 10YR5/1 (灰白)				
I	第 18 回	15	PL.10	R0014 R0017	II	須恵器 壺?	不明	—	—	(5.7)	132.46	良好 20%	10YR2/1 (褐) 7.5YR6/1 (褐)					
I	第 18 回	16	PL.10	R0014	II	須恵器 壺?	7c	—	—	(4.7)	17.6	良好	—	10YR5/1 (褐灰) 10YR5/1 (褐灰)				
I	第 18 回	17	PL.10	R0006	II	須恵器 壺?	7c	—	—	(7.5)	46.05	良好	—	5YR5/1 (灰) N4/ (灰)				
2	KH4001	第 23 回	19	PL.11	R0058	VII	須恵器 双耳环	後葉 ~ 9c 初頭	[10.0]	(7.5)	4.45	41.27	良好 30%	2.5Y6/1 (黄灰) 2.5Y5/1 (黄灰)				
2	KH4001	第 23 回	20		R0060	VII	須恵器 壺?	後葉 ~ 9c 初頭	—	(8.8)	(2.0)	33.45	良好	—	2.5Y5/1 (黄灰) 2.5Y5/1 (黄灰)			
2	KH4001	第 23 回	21	PL.11	R0060	VII	土師器 壺	8c	—	—	(5.5)	52.05	良好	—	7.5YR4/1 (褐色) 7.5YR4/1 (褐色)			
2	KH4001	第 23 回	22	PL.11	R0041	VII	土師器 壺	9c	—	—	(5.2)	42.69	良好	—	SYR5/3 (にぶい赤褐色) SYR5/3 (にぶい赤褐色)			
2	KH4001	第 23 回	23	PL.11	R0060	VII	土師器 壺?	古墳後期	—	—	(6.9)	78.31	良好	—	10YR5/1 (褐色) 10YR5/1 (褐色)			
2	KH4001	第 23 回	24	PL.11	R0058	VII	土師器 壺?	8c ~ 9c 前半	—	—	4.7	26.35	良好	—	7.5YR4/2 (黄褐色) SYR4/3 (にぶい赤褐色)			
2	KH4001	第 23 回	25	PL.11	R0058	VII	土師器 壺?	9c	[11.6]	—	(3.4)	21.93	良好	—	SYR5/4 (にぶい赤褐色) SYR5/4 (にぶい赤褐色)	甲斐型		
2	KH4001	第 23 回	26		R0058	VII	土師器 壺?	8c 前半	—	—	3.5	22.3	良好	—	7.5YR4/1 (褐色) 7.5YR4/2 (褐色)			
2	KH4001	第 23 回	27		R0058	VII	土師器 壺?	8c 前半	—	—	2.9	18.68	良好	—	7.5YR4/2 (灰褐色) 7.5YR4/2 (灰褐色)			
2	KH4001	第 23 回	28		R0058	VII	土師器 壺?	8c 前半	—	—	3.0	12.2	良好	—	2.5YR5/4 (にぶい赤褐色) 2.5YR5/4 (にぶい赤褐色)			
2	KH4001	第 23 回	29	PL.11	R0026 R0039	VII	土師器 壺?	10c	[12.5]	6.7	3.6	72.7	良好 45%	7.5YR7/4 (にぶい橙) 7.5YR7/4 (にぶい橙)				
2	KH4001	第 23 回	30	PL.11	R0058	VII	土師器 壺?	8c 前半 ~ 9c 前半	[12.6]	[7.8]	4.75	88.11	良好 60%	SYR3/3 (晴赤褐色) SYR3/3 (晴赤褐色)				
2	KH4001	第 23 回	31	PL.11	R0041	VII	土師器 壺?	8c 前半 ~ 9c 前半	[11.0]	[6.9]	4.3	36.41	良好 20%	SYR5/4 (にぶい赤褐色) SYR5/4 (にぶい赤褐色)				
2	KH4001	第 23 回	32	PL.11	R0040	VII	土師器 壺?	8c 前半 ~ 9c 前半	—	—	(2.0)	2.46	良好	—	7.5YR4/3 (褐) 7.5YR4/3 (褐)	墨書		
2	KH4001	第 23 回	33	PL.11	R0058	VII	土師器 壺?	8c 前半 ~ 9c 前半	—	—	(3.5)	8	良好	—	7.5YR4/4 (褐) 7.5YR4/4 (褐)	墨書		
2	KH4001	第 23 回	34	PL.11	R0058	VII	土師器 壺?	8c 前半 ~ 9c 前半	—	—	(2.7)	30.65	良好	—	7.5YR4/3 (褐) 7.5YR4/3 (褐)	墨書		
2	SK4001	第 29 回	39	PL.14	R0077	VII	土師器 壺?	9c 中葉 ~ 9c 後葉	—	—	11.8	6.2	3.7	135.51	良好 99%	7.5YR5/3 (にぶい赤褐色) 7.5YR4/4 (にぶい赤褐色)	墨書	
2	SK4001	第 29 回	40	PL.14	R0064 R0088 R0090 R0091 R0092	VII	土師器 壺?	9c 中葉 ~ 9c 後葉	—	—	11.4	6.3	4.0	149.31	良好 95%	7.5YR5/3 (にぶい赤褐色) 7.5YR5/3 (にぶい赤褐色)	墨書	

IDC	出土地点 トレンチ	標印番号	報告番号	図版番号	R番号	出土層位	種類 分類	時代	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	焼成 度	残存率	内面色調 外面色調	備考
2	SK4001	第29回	41	PL-14	R0076 R0079 R0082 R0084 R0087 R0088 R0089 R0090 R0093 R0094 R0095	VII	土師器 甕	9c 中葉 ～9c 後葉	14.3	8.0	11.2	384.51	良好 95%	SYR3/2 (清水色) SYR2/1 (黒刷)		
2	SK4001	第29回	42	PL-14	R0065 R0068 R0067 R0090 R0103	VII	土師器 甕	9c 中葉 ～9c 後葉	-	(9.75)	375.77		良好 85%	7.5YR5/3 (にじいろ・黒) 7.5YR5/3 (にじいろ・黒)		
2	SK4001	第29回	43	PL-14	R0065 R0103	VII	土師器 甕	9c 中葉 ～9c 後葉	-	[8.0]	(6.6)	65.68	良好 25%	7.5YR4/2 (灰褐色) 7.5YR4/2 (灰褐色)		
2	SX4001	第32回	44	PL-14	R0104	VII	須恵器 甕	8c	-	縹み径 3.4	(1.6)	29.24	良好 55%	5Y7/7 (灰白色) 5Y7/7 (灰白色)		
2	SX4001	第32回	45	PL-14	R0104	VII	須恵器 甕	9c	[12.2]	高台径 [8.2]	4.6	45.27	良好 20%	7.5YR5/2 (灰褐色) 7.5YR5/1 (灰褐色)		
2	SX4001	第32回	46	PL-14	R0068	VII	土師器 甕	9c	-	縹み径 2.4	(1.5)	9.15	良好 90%	7.5YR4/2 (灰褐色)		
2	SX4001	第32回	47	PL-15	R0058 R0068 R0104	VII	土師器 甕	9c	[17.0]	縹み径 2.5	5.1	89.77	良好 25%	7.5YR4/2 (灰褐色)		
2	SX4001	第32回	48	PL-15	R0070	VII	土師器 小型甕	9c	[14.5]	-	(9.1)	126.55	良好 45%	7.5YR3/3 (暗褐色) 7.5YR3/1 (暗褐色)		
2	SX4001	第32回	49	PL-14	R0104	VII	土師器 甕	9c	-	-	(4.2)	29.82	良好 60%	7.5YR4/2 (灰褐色) 7.5YR4/2 (灰褐色)		
2	SX4001	第32回	50	PL-15	R0068	VII	土師器 甕	9c	-	6.6	(2.7)	58.64	良好 60%	10YR4/2 (灰黃褐色) 7.5YR4/2 (灰褐色)		
2	SX4001	第32回	51		R0068	VII	土師器 甕	9c	-	[6.8]	(1.6)	33.77	良好 60%	SYRA6 (赤褐色) SYRA6 (赤褐色)		
2	SX4001	第32回	52	PL-14	R0068	VII	陶器?	(中世)	-	-	(4.3)	32.5	良好 -	2.5Y6/1 (灰褐色) 2.5Y5/1 (灰褐色)		
2	SX4001	第32回	53	PL-15	R0063 R0068	VII	土師器 甕	9c 中葉	[11.9]	7.0	4.8	113.41	良好 60%	SYRA3 (にじいろ・赤褐色) SYRA3 (にじいろ・赤褐色)	墨書き	
2	SX4001	第32回	54	PL-15	R0068	VII	土師器 甕	9c 中葉	-	[6.2]	(2.6)	27.79	良好 25%	7.5YR4/2 (灰褐色) 7.5YR4/2 (灰褐色)	墨書き?	
2	SX4001	第32回	55	PL-15	R0068	VII	土師器 甕	9c	-	-	(2.2)	2.75	良好 -	SYR6/4 (にじいろ・黒) SYR6/6 (黒)	墨書き	
2	SX4001	第32回	56	PL-15	R0068	VII	土師器 甕	9c	-	-	(0.9)	38.45	良好 -	7.5YR5/3 (にじいろ・黒) 7.5YR5/3 (にじいろ・黒)	墨書き	
2	SX4001	第32回	57	PL-15	R0068	VII	土師器 甕	9c	-	-	(0.6)	9.93	良好 -	7.5YR4/1 (灰褐色) 10YR4/1 (灰褐色)	墨書き	
2	SX4001	第32回	58		R0068	VII	土師器 甕	9c 前半	[11.7]	[8.3]	4.0	32.27	良好 20%	SYRA/1 (灰褐色) 7.5YR4/2 (灰褐色)		
2	SX4001	第32回	59	PL-15	R0100	VII	土師器 甕	9c 前半	[10.7]	[7.2]	3.75	50.38	良好 40%	7.5YR4/5 (灰褐色) 7.5YR4/5 (灰褐色)		
2	SX4001	第32回	60		R0068	VII	土師器 甕	9c 前半	-	-	3.8	29.71	良好 -	7.5YR5/2 (灰褐色) 7.5YR5/2 (灰褐色)		
2	SX4001	第32回	61	PL-15	R0068	VII	土師器 甕	9c	[10.9]	-	(3.9)	21.43	良好 30%	SYRA/3 (にじいろ・赤褐色) SYRA/4 (にじいろ・赤褐色)	墨書き	
2	SX4001	第32回	62	PL-15	R0072	VII	土師器 甕	9c	-	-	(4.6)	24.27	良好 -	SYRA/3 (にじいろ・赤褐色) SYRA/3 (にじいろ・赤褐色)		
2	SX4001	第32回	63		R0073	VII	土師器 甕	9c	-	-	(3.7)	11.1	良好 -	SYR3/4 (暗褐色) SYR3/3 (暗褐色)		
2	第33回	64	PL-16	R0026	VII	灰褐色輪 甕	10c	-	-	(3.2)	15.96	良好 -	2.5Y6/1 (灰褐色) 2.5Y6/1 (灰褐色)			
2	第33回	65	PL-16	R0042	VII	須恵器 甕	8c	-	縹み径 3.2	(2.4)	53.88	良好 65%	2.5Y6/1 (灰褐色) 2.5Y6/1 (灰褐色)			
2	第33回	66	PL-16	R0046	VII	須恵器 甕(鉢)	9c	-	縹み径 3.5	(2.6)	79.56	良好 40%	2.5Y7/1 (灰褐色) 2.5Y8/1 (灰褐色)			
2	第33回	67	PL-16	R0046	VII	須恵器 甕(鉢)	9c	[16.1]	2.9	3.0	58.9	良好 20%	NAF (灰褐色) NAF (灰褐色)			
2	第33回	68	PL-16	R0050	VII	須恵器 甕	9c	-	-	(2.6)	22.48	良好 -	5Y7/7 (灰白色) 5Y6/1 (灰)	墨書き?		
2	第33回	69	PL-16	R0046	VII	須恵器 軽量	9c	-	縹み径 2.6	(2.8)	73.5	良好 60%	2.5Y5/1 (灰褐色) 2.5Y5/1 (灰褐色)			
2	第33回	70		R0046	VII	須恵器 甕	9c	-	-	(2.2)	20.19	良好 -	10YR6/1 (灰褐色) 10YR5/1 (灰褐色)			
2	第33回	71	PL-16	R0027	VII	須恵器 甕	8c	-	-	(4.0)	46.08	良好 -	2.5Y5/1 (灰褐色) 2.5Y5/1 (灰褐色)			
2	第33回	72	PL-16	R0042	VII	須恵器 高台	8c	[21.0]	-	(3.2)	71.51	良好 20%	2.5Y8/1 (灰褐色) 2.5Y5/1 (灰褐色)			
2	第33回	73	PL-16	R0042	VII	須恵器 甕	8c	-	-	(8.1)	85.82	良好 40%	2.5Y7/1 (灰褐色) 2.5Y7/1 (灰褐色)			
2	第33回	74	PL-16	R0042	VII	土師器 甕	9c	-	-	(1.7)	7.32	良好 -	SYRA/3 (にじいろ・赤褐色) SYRA/4 (にじいろ・赤褐色)	墨書き		
2	第33回	75	PL-16	R0042	VII	土師器 甕	9c	-	-	(3.6)	6.15	良好 -	SYR2/1 (灰褐色) 10YR3/2 (灰褐色)	墨書き?		
2	第33回	76	PL-16	R0042	VII	土師器 甕	9c	-	-	(1.7)	8.39	良好 -	SYR4/6 (水褐色) SYR4/6 (水褐色)	墨書き		
2	第33回	77	PL-16	R0101	VII	土師器 甕(鉢)	9c	-	-	(3.0)	30.21	良好 25%	7.5YR4/3 (灰褐色) 7.5YR4/3 (灰褐色)			
2	第33回	78	PL-16	R0025	VII	土師器 不明	不明	-	-	(2.2)	14.65	良好 -	10RS/8 (水褐色) 10RS/8 (水褐色)			

工区	出土遺物 トレンチ	種類 番号	報告 番号	回収 番号	R番号	出土 層位	分類	時代	口径 (cm)	直径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	形状 或 残存率	内面色調 外面色調	備考
2	第33回	79	PL.16	R0050	VII	土師器 环	9c	-	(4.5)	13.85	良好	-	SYR64 (にぶい根) SYR64 (にぶい根)	甲斐型	
2	第33回	80	PL.17	R0050	VII	土師器 环	9c	-	[6.6]	(2.2)	36.23	良好	SYR46 (赤褐) SYR46 (赤褐)		
2	第33回	81	PL.17	R0045	VII	土師器 环	7c	-	-	(3.2)	23.06	良好	-	SYR64 (にぶい根) SYR64 (にぶい根)	
2	第33回	82	PL.17	R0038	VII	土師器 环	9c	[11.0]	(7.4)	3.5	41.29	良好 40%	SYR44 (にぶい赤褐) 2.SYR44 (にぶい赤褐)	黒書	
2	第33回	83	PL.17	R0049	VII	土師器 环	8c	末	-	高台径 (8.8)	(5.0)	41.26	良好 20%	7.SYR54 (にぶい根) 7.SYR54 (にぶい根)	
2	第33回	84	PL.17	R0037	VII	土師器 环	8c	末	[15.6]	高台径 (9.3)	[6.8]	115.6	良好 40%	SYR44 (にぶい赤褐) 2.SYR44 (根)	
2	第33回	85	PL.17	R0050	VII	土師器 環	9c	-	[6.3]	(4.5)	44.37	良好 35%	10.YRS52 (灰黄褐) 7.SYR52 (灰褐)		
2	第33回	86	PL.17	R0050	VII	弥生土器 蓋	弥生	-	-	(2.5)	36.03	良好 -	2.SYR61 (灰黄) 7.SYR64 (にぶい根)		
2	第34回	90	PL.18	R0113	X I	陶文土器 飾	陶文焼附	-	-	(5.0)	18.13	良好	-	10.YRS52 (灰黄褐) 10.YR41 (灰褐)	
2	第34回	91	PL.18	R0113	X I	陶文土器 飾	陶文焼附	-	-	(2.4)	15.32	良好	-	10.YR33 (青褐) 10.YR41 (灰褐)	
2	第34回	92	PL.18	R0113	X I	陶文土器 飾	陶文焼附	-	-	(3.7)	31.41	良好	-	10.YRS52 (灰黄褐) 10.YR51 (赤褐)	
2	第34回	93	PL.18	R0113	X I	陶文土器 飾	陶文焼附	-	-	(3.2)	34.35	良好 -	SYR43 (にぶい赤褐) SYR42 (灰褐)		
2	第34回	94	PL.19	R0113	X I	弥生土器 蓋	弥生	-	-	(2.9)	26.12	良好 -	7.SYR64 (にぶい根) 7.SYR64 (にぶい根)		
2	第34回	95	PL.19	R0113	X I	弥生土器 蓋	弥生	-	-	(3.2)	16.45	良好 -	10.YR63 (にぶい青褐) 10.YR73 (にぶい黄褐)		
2	第35回	100	PL.19	R0101 R0030	VIII	須恵器 环	8c	[13.9]	[6.4]	4.1	87.94	良好 50%	2.SYR51 (黄) 2.SYR51 (黄)		
2	第35回	101	PL.19	R0064	VIII	須恵器 环	8c	[15.1]	高台径 [10.2]	4.1	84.87	良好 40%	N4/ N4/(灰)		
2	第35回	102	PL.19	R0043	VIII	土師器 环	10c	[12.7]	5.5	3.9	96.93	良好 40%	7.SYR56 (明褐) 10.YRS54 (にぶい黄褐)		
2	第35回	103	PL.19	R0030	VIII	土師器 环(蓋)	9c	[16.6]	-	(1.9)	21.92	良好 25%	7.SYR43 (根) 7.SYR43 (根)		
2	第35回	104	PL.19	R0101	VIII	土師器 环	古墳中期	-	-	(5.4)	115.05	良好 70%	2.SYR62 (灰黄) 2.SYR62 (灰黄)		
2	第35回	105	PL.19	R0043	VIII	土師器 环	9c	-	[7.4]	(1.8)	26.38	良好 30%	7.SYR64 (にぶい根) 7.SYR64 (にぶい根)	甲斐型	
2	第35回	106	PL.19	R0030	VIII	土師器 环	9c	-	-	(4.0)	11.84	良好 -	7.SYR54 (にぶい根) 7.SYR54 (にぶい根)	甲斐型	
2	第35回	107	PL.19	R0102	VIII	土師器 環	9c	-	-	(6.3)	97.03	良好 -	7.SYR54 (にぶい根) 7.SYR54 (にぶい根)		
2	第35回	108	PL.20	R0101	VIII	土師器 環	9c	-	-	(3.2)	46.86	良好 -	7.SYR33 (青褐) 7.SYR33 (青褐)		

石製品

工区	出土遺構 トレンチ	種類 番号	報告 番号	回収 番号	R番号	出土 層位	分類	時代	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	
表保	春日神社	第10回	I	PL.9	-	勾玉	-	-	3.70	2.30	1.22	13.25	滑石	
1	第18回	18	PL.10	R0012	II	石皿	不明	(11.9)	(17.2)	(5.2)	1591.98			
2	第34回	96	PL.18	R0113	X I	打削石斧	-	-	13.15	3.4	2.7	240.51		
2	第34回	97	PL.19	R0113	X I	石鏃	-	-	2.5	1.95	1.22	4.26	墨端石	
2	第34回	98	PL.19	R0113	X I	石鏃	-	-	3.70	2.18	0.62	4.22		

本製品

工区	出土遺構 トレンチ	種類 番号	報告 番号	R番号	出土 層位	分類	時代	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	
2	SH4001P002	第27回	35	PL.12	R0051	VII	漆板	-	40.2	20.8	5.7		台輪を転用
2	SH4001P003	第27回	36	PL.12	R0108	VII	漆板	-	38.7	21.2	6.0		台輪を転用
2	SH4001P001	第27回	37	PL.13	R0069	VII	漆板	-	39.9	20.9	5.3		台輪を転用
2	SH4001P002	第27回	38	PL.13	R0052	VII	漆板	-	38.1	20.7	3.5		台輪を転用
2	第33回	87	PL.17	R0053	VII	不明	-	-	30.8	3.8	1.6		
2	第33回	88	PL.17	R0099	VII	不明	-	-	52.1	2.9	1.7		
2	第33回	89	PL.17	R0056	VII	不明	-	-	57.2	2.5	1.6		
2	第34回	99	PL.18	R0099	X	柱材?	-	-	62.7	18.4	6.8		クヌキ
2	第35回	109	PL.20	R0067	-	不明	-	-	15.85	1.1	0.75		
2	第35回	110	PL.20	R0067	-	不明	-	-	9.3	2.3	0.95		
2	第35回	111	PL.20	R0067	-	不明	-	-	7.1	1.8	1.6		
2	第35回	112	PL.20	R0067	-	不明	-	-	9.1	3.1	1.1		
2	第35回	113	PL.20	R0067	-	不明	-	-	9.1	2.1	0.9		

出土土器分類表

R番号	工区	出土遺構 出土部位	縄文		弥生後期		古墳前期		古墳中期			古墳後期			7世紀					
									土師器		須恵器		土師器		須恵器					
			点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)		
0001																				
0002																				
0003	4Tr	II	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	6.27	—	—			
0004	5Tr	II	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	7.34	—	—			
0005																				
0006	I	—	—	17	186.48	—	—	—	—	1	28.26	1	8.84	—	—	3	30.76	6	159.87	
0007	I	—	—	3	29.81	—	—	—	—	1	39.65	1	26.80	1	45.77	8	79.76	1	6.58	
0008	I	II	—	—	4	31.43	—	—	—	—	—	1	5.54	—	—	5	37.20	—	—	
0009	I	II	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	9.36	—	—	12	62.54	3	34.14	
0010	I	II	—	—	3	29.36	—	—	—	—	—	9	54.9	—	—	28	173.18	9	98.66	
0011	I	II	—	—	9	157.68	—	—	—	—	—	5	28.44	—	—	13	168.69	4	23.37	
0012	I	II	—	—	2	26.07	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	27.23	1	3.34	
0013	I	II	—	—	2	30.79	—	—	—	—	—	2	6.70	—	—	11	133.63	—	—	
0014	I	II	—	—	1	5.16	—	—	2	109.91	—	—	3	18.63	—	—	12	64.73	3	40.41
0015	I	II	—	—	11	252.57	—	—	—	—	—	5	172.53	—	—	7	27.10	3	30.49	
0016	I	II	—	—	1	11.17	—	—	—	—	—	6	68.02	1	20.33	9	60.67	7	52.16	
0017	I	II	1	13.64	4	27.94	—	—	—	—	—	7	82.06	1	16.81	25	245.27	17	128.95	
0018	I	II	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	104.91	—	—	
0019	I	II	1	10.72	1	10.72	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	5.39	—	—	
0020	I	II	—	—	1	13.44	—	—	—	—	—	1	4.60	1	6.55	5	38.40	—	—	
0021	I	II	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	10.36	3	30.54	
0022	I	II	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	3.22	—	—	
0023																				
0024	I	II	—	—	2	24.05	—	—	—	—	—	12	78.25	1	19.09	6	48.28	3	37.81	
0025	2	II	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0026	2	II	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	17.83	—	—	—	—	—	—	
0027	2	VII																		
0028																				
0029	2	VII	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	10.81	—	—	8	68.88	1	13.50	
0030	2	VII	1	10.50	6	34.06	—	—	—	—	—	9	27.57	—	—	19	75.63	—	—	
0031																				
0032	2	KH4003	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0033	2	SD4001	—	—	3	27.63	4	17.74	—	—	—	—	—	—	4	14.47	—	—	—	
0034	2	表採	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0035	2	KH4001	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	10.08	—	—	—	—	—	—	
0036	2	KH4002	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0037	2	VII	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0038	2	VII	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0039	2	VII	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0040	2	KH4001	—	—	1	7.07	—	—	—	—	—	—	—	—	2	5.22	—	—	—	
0041	2	KH4001	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	16.90	—	4	20.89	—	—	—	
0042	2	VII	—	—	8	50.58	—	—	—	—	—	2	11.52	—	—	—	—	—	—	
0043	2	表採	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0044	2	VII	—	—	2	26.32	—	—	—	—	—	1	0.66	—	4	10.89	—	—	—	
0045	2	VII	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	23.06	—	—	—	
0046	2	VII	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	16	109.35	—	—	—	
0047	2	VII	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	19.47	—	—	—	
0048	2	KH4001	—	—	1	4.01	—	—	—	—	—	—	—	—	1	6.09	—	—	—	
0049	2	VII	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0050	2	VII	—	—	2	58.15	—	—	—	—	—	3	31.35	—	6	31.25	1	7.74	—	
0051																				
0052																				
0053																				
0054																				
0055																				
0056																				
0057	2	KH4001	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	21.64	—	—	—	—	—	—	
0058	2	KH4001	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	19.08	—	—	—	—	—	—	
0059	2	VII	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	8.14	—	—	—	
0060	2	KH4001	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	78.31	—	—	—	—	—	—	

8世紀				9世紀				10世紀				不明		備考	
土器部		須恵器		土器部		須恵器		土器部		須恵器		灰陶陶器			
点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)		
1	7.93	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
2	28.80	1	24.44	11	125.86	—	—	—	—	—	—	4	10.02	1次調査	
9	82.25	—	—	4	43.22	—	—	—	—	—	—	24	107.00	1次調査	
11	85.12	—	—	3	22.48	—	—	—	—	—	—	5	10.50	—	
7	34.28	5	76.53	1	6.10	—	—	—	—	—	—	10	17.39	表探	
14	95.04	3	28.97	5	22.28	—	—	—	—	—	—	19	40.92	—	
44	270.22	4	65.84	14	133.03	—	—	—	—	—	—	19	53.55	—	
19	114.54	—	—	8	52.76	4	25.20	—	—	—	—	11	19.07	—	
7	81.60	—	—	2	17.01	—	—	—	—	—	—	2	3.79	—	
12	96.37	—	—	5	116.86	3	29.65	—	—	—	—	13	36.59	—	
38	353.29	8	111.22	3	19.60	2	14.08	—	—	—	—	68	173.19	—	
37	314.08	2	23.20	13	68.83	—	—	—	—	—	—	37	61.12	—	
39	325.32	2	10.07	3	15.29	7	54.83	—	—	—	—	68	184.67	—	
50	386.68	5	53.03	5	40.29	2	11.67	—	—	—	—	96	197.21	—	
4	30.71	—	—	1	8.37	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
3	51.92	3	23.27	—	—	1	3.76	—	—	—	—	2	3.40	—	
7	71.62	—	—	1	6.34	1	3.18	—	—	—	—	3	3.31	—	
10	64.98	2	18.50	2	37.79	—	—	—	—	—	—	12	20.12	—	
1	16.32	—	—	1	3.21	—	—	—	—	—	—	4	8.84	春日神社表探	
32	318.65	—	—	2	10.81	—	—	—	—	—	—	21	66.98	—	
—	—	—	—	11	91.60	1	6.48	—	—	—	—	—	—	—	
1	1.17	—	—	2	22.19	1	3.55	2	72.7	—	—	1	15.96	—	
—	—	—	—	46.08	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1点抽出種子	
9	104.46	2	11.01	50	296.25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
41	450.81	6	54.56	90	612.13	5	131.67	—	—	—	—	—	—	種子	
—	—	—	—	7	21.04	—	—	—	—	—	—	1	11.60	—	
7	83.15	2	17.82	91	516.74	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
1	3.29	1	11.08	5	36.60	1	5.57	—	—	—	—	—	—	—	
—	—	—	—	2	9.31	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
—	—	—	—	1	15.86	3	8.84	—	—	—	—	—	—	—	
1	115.6	—	—	—	8	178.43	1	20.41	—	—	—	—	—	—	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1点抽出	
11	130.82	3	70.11	24	88.5	1	4.38	—	—	—	—	—	—	—	
6	59.59	7	200.46	61	422.20	2	19.25	—	—	—	—	—	—	—	
76	600.66	18	470.85	245	1385.82	9	73.69	—	—	—	—	—	55	107.04	—
24	76.05	—	—	42	220.01	5	37.52	1	96.95	—	—	—	—	—	
16	140.25	10	139.28	44	228.40	1	6.26	—	—	—	—	4	4.00	—	
18	170.56	2	23.22	15	100.73	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
39	383.53	15	188.97	59	301.03	4	232.15	—	—	—	—	24	43.55	—	
4	21.34	1	2.72	14	55.84	1	2.81	—	—	—	—	—	—	—	
24	192.50	2	13.57	43	162.12	1	2.09	—	—	—	—	15	31.23	—	
3	52.71	—	—	37	102.18	1	12.38	—	—	—	—	11	15.06	—	
20	176.34	5	88.31	26	288.25	1	22.48	—	—	—	—	18	28.53	木材	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	木材	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	木材	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	木材	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	木材	
17	120.83	1	29.73	42	168.28	—	—	—	—	—	—	19	36.50	—	
11	43.43	3	48.92	72	873.32	3	58.99	—	—	—	—	—	—	—	
14	63.33	3	63.52	41	252.65	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
1	52.05	1	24.95	21	146.82	2	41.73	—	—	—	—	12	27.71	—	

品番号	T.EK	出土遺構 出土層位	織文		弥生後期		古墳前期			古墳中期			古墳後期			7世紀				
										土師器		須恵器		土師器		須恵器		土師器		
			点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	
0061	2	KH4001	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10	54.27	—	—	
0062	2	KH4001	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0063	2	SX4001																		
0064	2																			
0065	2	SK4001	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	8.93	—	—	—	—	—	—	
0066	2		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0067																				
0068	2	SX4001	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	13	80.91	—	—	
0069																				
0070																				
0071	2	SX4001	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0072	2	SX4001	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0073	2	SX4001																		
0074	2	SX4001	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0075	2	SX4001	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0076	2	SK4001																		
0077	2	SK4001																		
0078	2	SK4001																		
0079	2	SK4001																		
0080	2	SK4001	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0081	2	SK4001	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0082	2	SK4001																		
0083	2	SK4001																		
0084	2	SK4001																		
0085	2	SK4001																		
0086	2	SK4001																		
0087	2	SK4001																		
0088	2	SK4001																		
0089	2	SK4001																		
0090	2	SK4001	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0091	2	SK4001																		
0092	2	SK4001																		
0093	2	SK4001	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0094	2	SK4001																		
0095	2	SK4001																		
0096	2	SK4001	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0097																				
0098																				
0099																				
0100	2	SX4001																		
0101	2		—	—	—	—	—	—	1	115.05	—	—	1	10.45	4	13.59	5	17.01	1	13.59
0102	2		—	—	3	13.71	—	—	—	—	—	5	15.45	—	—	5	27.41	—	—	
0103	2	SK4001	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0104	2	SK4001	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6	42.35	1	21.98	
0105	2	表様	—	—	1	3.76	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0106	2	VII	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0107	2	VII	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0108																				
0109	2	SK4001	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0110	2	VII	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	30.97	—	—	8	43.11	3	22.96	
0111	2	表様	—	—	2	21.85	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	22.55	—	—	
0112																				
0113	2	X I	110	876.91	69	515.59	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
0114																				
0115																				
合計			113	911.77	159	1599.4	4	17.74	3	224.96	2	67.91	92	873.22	9	122.14	279	2015.88	67	716.09
比率%			2.9%	2.9%	4.0%	5.0%	0.1%	0.1%	0.1%	0.7%	0.1%	0.2%	2.3%	2.7%	0.2%	0.4%	7.1%	6.3%	1.7%	2.3%

※ 各時期ごとの点数および重量の比率(%)は、時期が確定したものの総点数(3937点)および総重量(31815.1g)に対するものである。

8世紀				9世紀				10世紀				不明		備考	
土師器		須恵器		土師器		須恵器		土師器		須恵器		灰陶陶器			
点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)		
10	77.06	12	68.81	122	524.06	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
5	108.43	2	16.38	1	3.58	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		1	84.87											1点抽出 抽出	
—	—	—	—	14	516.05	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
2	3.69	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	木材	
5	46.65	3	27.37	259	2471.20	5	66.56	—	—	—	—	—	29	53.19	
				1	126.55									木材 1点抽出	
—	—	—	—	1	11.78	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
				1	24.27									抽出 抽出	
—	—	—	—	1	11.1									—	
—	—	—	—	1	32.11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
—	—	—	—	1	29.68	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
				11	384.51									1点抽出 1点抽出 抽出 抽出	
				1	135.51									抽出 抽出	
—	—	—	—	—	—	1	10.60	—	—	—	—	—	—	—	
—	—	—	—	1	19.54	—	—	—	—	—	—	—	—	抽出 抽出	
				5	149.31									抽出 抽出 抽出 抽出 抽出 抽出 抽出	
—	—	—	—	1	3.03	—	—	—	—	—	—	—	—	抽出 抽出	
—	—	—	—	1	1.57	—	—	—	—	—	—	—	—	抽出 抽出	
														抽出 抽出	
—	—	—	—	—	—	1	113.15	—	—	—	—	—	—	—	
						1	50.38							抹酒(欠番) 木材 木材 1点抽出	
29	385.75	9	146.48	35	198.6	—	—	—	—	—	—	19	30.26		
18	118.32	9	112.09	224	732.33	5	29.316	—	—	—	—	—	—	—	
—	—	—	—	63	225.60	3	8.06	—	—	—	—	—	—	—	
2	23.88	2	31.6	87	594	6	58.64	—	—	—	—	—	29	46.49	
1	4.93	—	—	2	10.66	†	28.77	—	—	—	—	—	—	—	
5	34.43	2	25.30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1.96	
7	56.02	—	—	31	164.57	1	19.46	—	—	—	—	—	10	12.80	
														木材	
—	—	—	—	9	24.83	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
18	120.77	7	81.49	50	228.25	—	—	—	—	—	—	22	44.18		
27	202.68	3	18.62	66	265.22	2	20.44	—	—	—	—	—	35	79.90	
														木材 木材 木の実	
820	7054.8	169	2569.1	2131	14277.7	85	1176.776	3	169.65	0	0	1	15.96	721 1591.67	
20.8%	22.2%	4.3%	8.1%	54.1%	44.9%	2.2%	3.7%	0.1%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%		

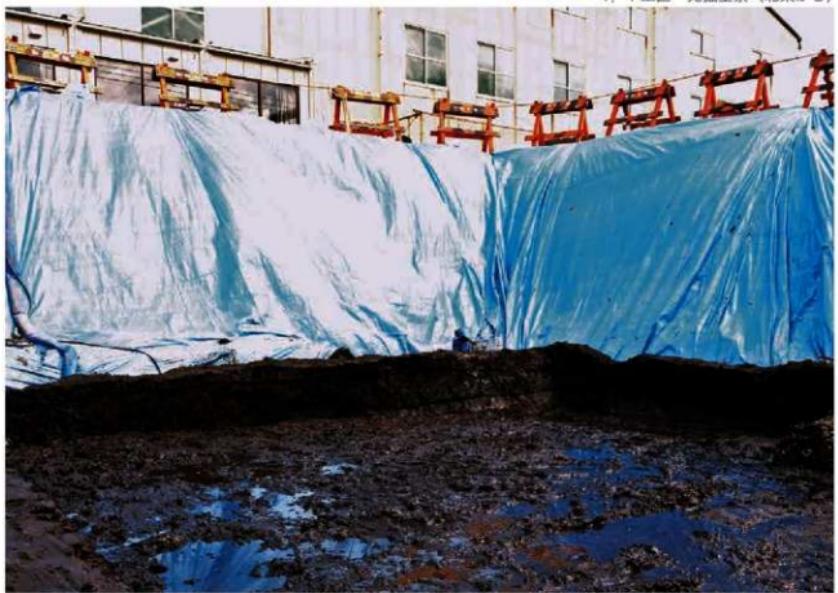
写 真 図 版
PLATE



1, 2 工区 上層遺構完掘全景（南東から）



1. 1工区 完掘全景（北東から）



2. 1工区 東壁・南壁（北西から）



1, 2 工区 遺構検出（南東から）



2, KH4002SX01 検出（南から）



3, KH4002SX02 検出（西から）



4, 2 工区 上層遺構完掘全景（南西から）



1, 2工区 上層遺構完掘全景（北西から）



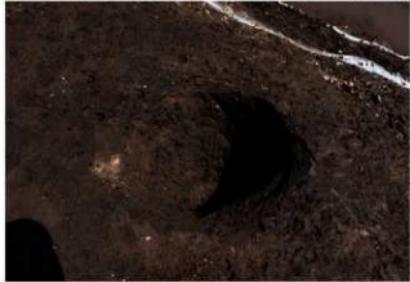
2, SD4001（南東から）



3, SD4001・KH4001 東西土層 GG'（北から）



4, SD4001 東西土層 DD'（南から）



5, Pit4001（南から）



6, 2工区 調査風景（北東から）



1. 2工区 下層造構検出（南東から）



2. 2工区 東西土層ベルト北 DD（南東から）



3. 2工区 東西土層ベルト南 FF（南から）



1, 2 工区 北壁土層 CC'・BB' (南東から)



2, SK4001 検出 (南東から)



3, SK4001 完掘 (東から)



4, SK4001 (南東から)



1. SH4001Pit01 (南から)



2. SH4001Pit02 (西から)



3. SH4001Pit03 (北東から)



4. SX4001 (南から)



5. SX4001 土師器 (53) 出土状況 (南から)



6. SX4001 土師器 (59) 出土状況 (西から)



7. 木製品 (87) 出土状況 (北東から)



8. 木製品 (99) 出土状況 (北から)



出土遺物集合



出土遺物集合（縄文）



1



2

春日神社 表探遺物



1



2

確認調査 5Tr 出土遺物

PL.10



本調査 1工区 II層出土遺物



本調査 2 工区 KH4001・KH4003 出土遺物



35



36

本調査 2工区 SH4001 出土遺物



37



38

本調査 2工区 SH4001 出土遺物



本調査 2工区 SK4001 出土遺物



本調査 2工区 SX4001 出土遺物





本調査 2工区 遺構外(VI層・VII層)出土遺物



本調査 2工区 遺構外(VI層・VII層)出土遺物



本調查 2工区 遺構外(X層・XⅠ層)出土遺物



本調査 2工区 遺構外(X層・XⅠ層)出土遺物



本調査 2工区 遺構外出土遺物



報告書抄録

ふりがな	おきたいせき だい 155 じちょうさちでん
書名	神田道跡 第 155 次調査地点
副書名	
シリーズ名	富士市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第 68 集
編著者名	若林美希（編著） 佐藤祐樹（著）
編集機関	富士市教育委員会（担当課：文化振興課）
所在地	〒 417-8601 静岡県富士市永田町 1 丁目 100 番地 TEL 0545-55-2875
発行年月日	令和 2 年 3 月 31 日

富士市埋蔵文化財調査報告 第 68 集

沖田遺跡 第 155 次調査地点

発行年月日 令和 2 年 3 月 31 日

編集・発行 富士市教育委員会

〒417-8601 静岡県富士市永田町一丁目 100 番地

TEL 0545-55-2875 FAX 0545-53-0789

E-mail:si-bunka@div.city.fuji.shizuoka.jp

印刷・製本 文光堂印刷株式会社

〒410-0871 静岡県沼津市西間門 68 番地の 1

(富士市行政資料登録番号 R1-62)